



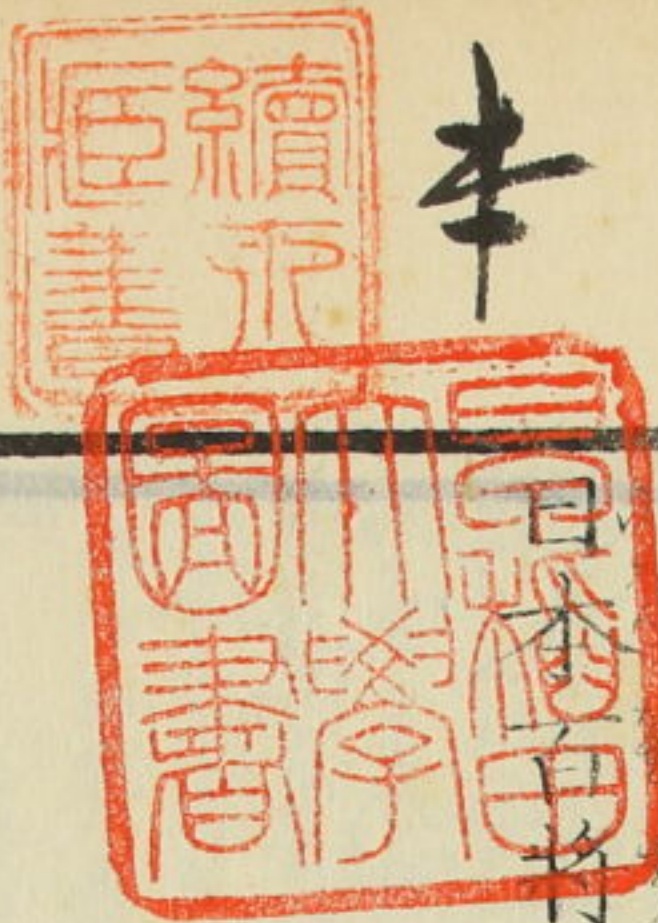
日本百將傳一夕話

士尾

~13
3566
12



門 13
號 3566
卷 12



本

傳一夕話卷之十二

東都
目錄

- 毛利元就
- 北條氏康
- 武田信玄
- 長尾謙信
- 齋藤道三
- 織田信長

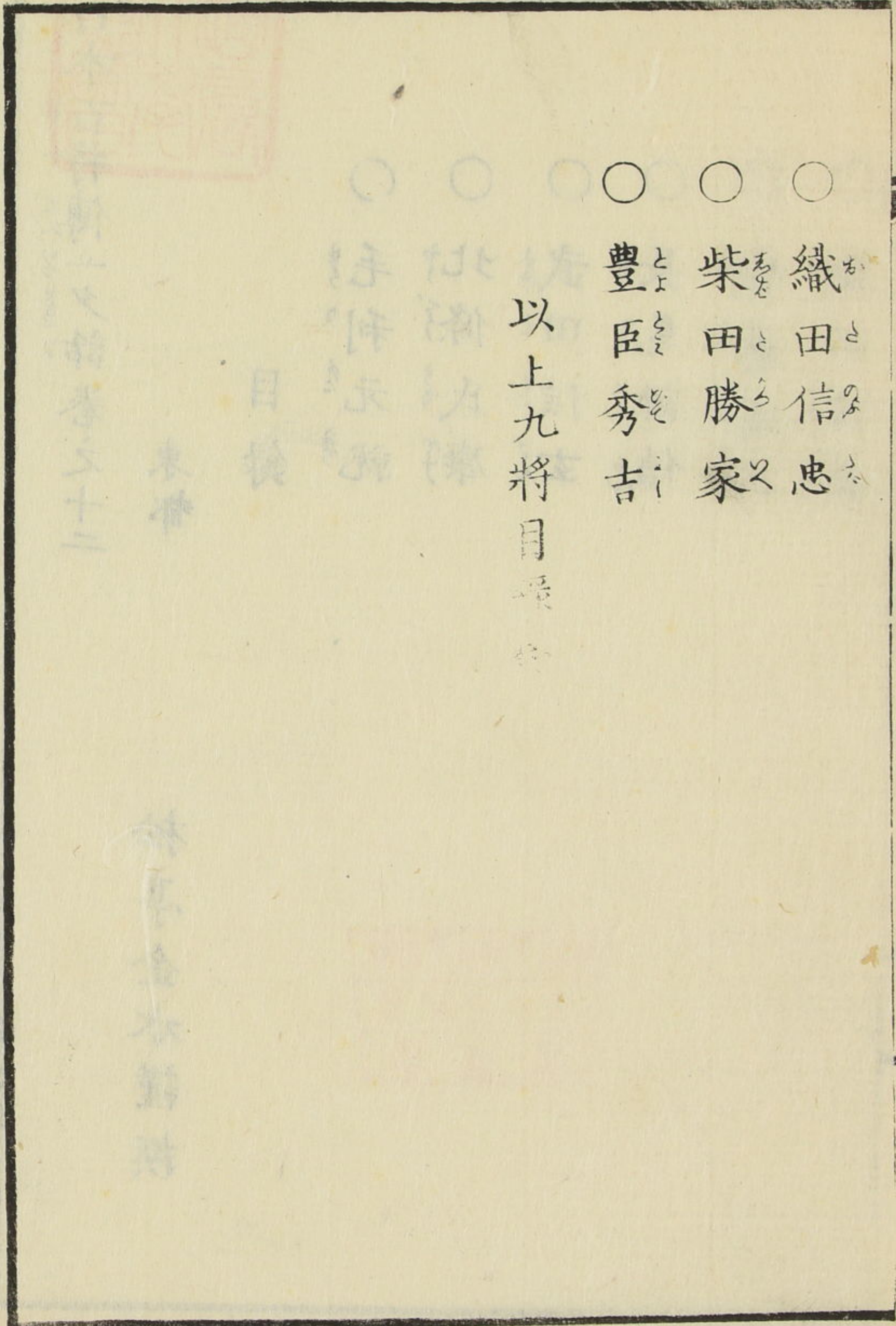
松亭金水謹撰

早稲田大學圖書館
昭和34.6.3
藏書

傳一夕話卷之十二

- 織田信忠
- 柴田勝家
- 豐臣秀吉

以上九將目錄



平城天皇第三皇子
阿保親王彈正尹賴子
備中守本三郎元就
ノ姓ヲ賜フ十代孫大
江匡房四代孫前大膳
大江元就治承四年天
下政道師範十五代
孫
大江元就
右馬頭
陸奥守

備中守
吉川駿河守
從四位
小早川左衛門
從三位中納言
隆元
元春
隆景

毛利元就

人皇百七代 正親町院元龜元年五月辛
今安政三丙辰追二百廿七年成

毛利元就者姓大江氏初攻陶氏而滅之
擊尼子而克之遂領山陰山陽十餘州

元就の從兄岩本孫六郎道忠ハ為人至孝小ト人ヲ德ニ稱ス元龜元年雲
及乃根の陣多左の膝口を射らば鐵骨髓小遺りて廢バ元就元來士哉
屯まこと飢渴を忍ぶが如し因て道三小診せむる小鐵を抜むと廢はと亦小外
科小委ぬ外科是を初んば元就阿之退け躬口を以て膿を吮ふ果と遺液は
中か入る因て痲痺快せり道忠恩を感じ死之恩を謝せんと必元就の面を
て察し汝が奉動を感じ存き恩伝と名大勇の者小あはれと深く戒めけり

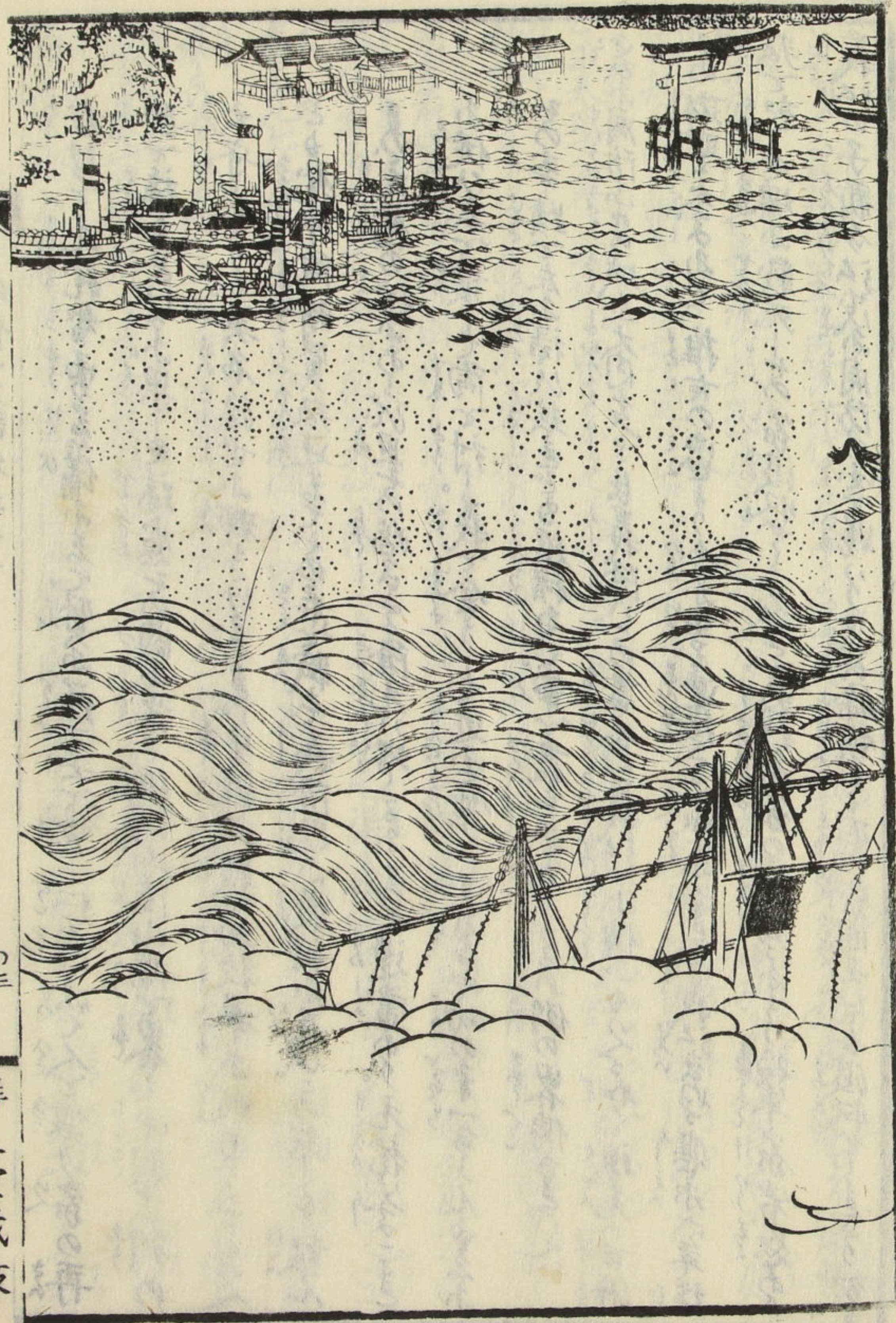
毛利元就の詠

弟大膳大夫廣元ハ頼朝小侍政事ヲ輔佐セテ。後念の出世なり。その子廣仲勇秀
 光大に左近将監といふ相模國毛利荘ヲ領シ。世々小府を治シ。氏を毛利ト改めけり。かく
 て學ヲ推授シ。元就ヨリ叔代先安藤國小下里高田郡小於テ。僅小千貫の地ヲ領シ。七十貫
 餘。其も名家の裔ナル。武備懈ルコトナキ。且人々至シ。備ヲ起シ。威名高ク。安元けき。小祿
 小少。自ら其の勢ハ申ス。その國雲別當田の城主。元子経久。その子晴久。鹽谷。貞。孫
 少。始メ雲別の半ヲ夷ケ。その子孫相續テ。漸ク小威ヲ養ヒ。今経久の世。不及ビテ。威權西別。小
 冠。至。元就も亦。旗。下。小。屬。一。ぬ。然。る。小。経。久。權。威。小。憑。據。テ。僅。小。千。貫。の。地。ヲ。領。シ。其。も。多。け。し。こ
 元就大志あり。其の由多。屢々之ヲ謀ル。之。見。之。當時。防長。豐。筑。ヲ。領。シ。威。勢。元。子。小。減。せ。る。る
 大内。公。義。隆。ハ。亦。都。府。軍。家。の。因。縁。ク。衆。人。ハ。之。貴。む。小。す。元。就。ハ。亦。時。元。子。小。叛。き。之。討。む。
 大内。小。屬。一。けり。経久。皆。大。小。怒。リ。天文。九年。の。秋。経久。父。子。大。軍。ヲ。率。テ。安藤。小。封。封。元

就守る。其の吉田の城ヲ圍ミ。攻む。元就。溝。を。築。ク。守。り。星。を。置。ク。之。守。守。守。守。射。月。射。日。の
 從。隙。カ。使。テ。防。別。小。遣。リ。之。接。兵。ト。乞。フ。義。隆。僅。ク。其。家。臣。陶。尾。張。守。時。賢。小。兵。從
 援。ケ。テ。援。リ。也。時。賢。防。別。ヲ。雷。發。シ。安藤。小。到。リ。之。以。テ。極。テ。経久。晴久。軍。ヲ。分。ち。陶。と
 戦。ヒ。之。挑。シ。け。り。元。子。軍。勢。戦。ハ。老。シ。本。國。ハ。引。越。せ。

後。太。平。記。ニ。按。ス。小。云。大。江。元。就。父。子。相。伴。ヒ。大。内。太。宰。大。貳。義。隆。ハ。恩。謝。七。纏。
 之。糸。於。地。上。ニ。種。ノ。弥。布。ヲ。献。ゼ。リ。義。時。卿。功。感。涕。々。以。濟。希。近。ク。是。言。今
 大。敵。ニ。引。け。り。於。於。城。ハ。利。運。多。シ。ト。い。ふ。也。元。就。武。勇。千。雄。万。英。小。越。々。之。譽。感。斜
 々。云。是。乃。天。下。の。人。吾。ヲ。振。と。し。つ。と。た。元。就。謀。畧。西。海。ヲ。權。シ。向。テ。教。願。シ。
 と。い。ふ。也。是。亦。十三。卷。の。春。の。條。ニ。見。ゆ。

附。テ。ハ。毛。利。元。就。名。家。貴。族。の。裔。ナリ。ト。い。ふ。也。人間。盛。衰。の。理。小。予。ク。之。
 家。且。ク。沉。落。シ。安藤。國。言。田。郡。小。僅。小。七。千。貫。之。地。ヲ。領。シ。叔。代。將。兵。之。



百將傳

〇三

群玉堂藏板



嚴島の海濱
元就陶全姜
軍を破る

百將傳

群玉堂藏板

在けて元就督勇名備不きて賢不強て士と愛仁を以て人と懐け家の再
 興と孫らとけけ不果して孫慮をの國不忠て後小山陰山陽と界し仲別十一列の
 大守となりて美名後世小輝さける。さよふは涯救戦の功技奉小暇むまこと人
 ども就仲陶晴賢叛逆をその君と就を義隆既小最初小及びこの怨を報ん
 め元就の他小あび思その場まう隆元ハ塔さる小すて遺書あり元就等まこと
 小従ひ兵と獲して陶て討て義と金うと逆必魔く。まざるや功の才一うん。ゆま小
 ちの事蹟で左小掃以茲まごも程措かて事と盡さ小あうざる。例の界傳さるや之
 爰小周防山の城主大内多々良義隆との書内義隆小傳小あひる。祖先ハ百餘
 年の琳聖太子あり。推古の世より今小至て連傳さる家系を。義法法ゆ。應永六年孫
 叛て起しく堀小戦死。その家没収せざる。とて叔代名家の裔さる小う。將軍家省有也。
 義隆の子新公弘茂小周防の邊で賜り。其餘領ま。下の六箇國に。も没収せざる。う。

これより義隆小至。既小六代小及ぶ。大内今義興ハ將軍家小功あて是より威勢
 熾小なり。防長豊筑の叔別と領し。その官太宰大貳小昇。九國中別小冠。ま。去。る。應
 仁の礼の時公卿を授礼と避て。ふ。小。来。て。義隆と憑む。因て心の勢業ハ。承。徳。念。の上小あり。
 こ小天文八年。勅使下向のとありて。天使、東大寺阿闍梨三條房信、日野大綱、言次、實、言、と官
 務惟液ありける。義隆これと容應の。領地ハ。藤、村、の。裸、地、と。え。る。こ。小。大。内。家。の。舊。居。と。陶、ハ
 岡、本、若、山、小。在。り。這、一、國、初、より。の。重。臣、と。て。美、州、尾、張、守、晴、賢、ハ。秘、更、若、量、の。者、と。バ。そ、の
 勢、ハ。君、を。凌、ぐ。然、る。不、這、般、の。天、後、ハ。漏、ま、さ、小。あ、び、え。渠、ガ。領、地、も。え、ら、ま、小。晴、賢、と。之、小
 志、を、ん。を、何、者、の。夫、没、と、い、ども。我、領、地、ハ。除、く、ま、小。前、代、未、聞、の。孫、事、之、か、ま、ま、と。安、家、と。傳、ら、ま、
 君、と、い、ふ、と、も。恐、び、ま、ま、と。身、及、び、岡、本、若、山、隆、房、一、族、安、房、守、隆、信、と。作、り、病、氣、と。号、し、と、府、と
 退、き、若、山、の。城、小。守、り。是、夜、孫、叛、の。計、決、意、ら、ん、悲、し、く、義、隆、ハ。孫、叛、の。あり、と、ま、ま、と、花、小
 跡、小、吟、ひ、只、管、風、流、心、を、委、信、月、卿、雲、客、の、交、り、小、明、一、言、う、け、る。時、小、天文、二十、年、秋、

付其月 曉天小若山を奪し七日の早天小佐波川をさす右田の嶽を推すと瑞雲寺小陳。唐
蕃の旗をさす今を陶か叛遷の最初をさす小於て大内の本城山の發動をさす
ひかる時節小及び今を迫り肥後の志ども心を疑ふ更小免角の疎慮を敵に不意に擄んじ
て三之小押寄せ山の城小迫り義隆防がせ御討り脱小自害とんえりて日野實宣誅め
いさく家保らて君小叛く天地不容の大罪人のまを保つる一旦深き鋒を避け後小軍勢を催
しその逆を擄らるる一挙かて罰さす万死をせ生を保ち百戦敗るとも一戦小利を得るこ
も今兵家の慣ひと理を竭し言さすければ諸士皆もまの深小同ト山口を為て困道と陣内
を法泉寺小入ける晴賢初ての寺小迫り時小大内の勇士と笑え豊田悪右衛門尉鬼武
い備きと陶が逆んるる一渠を劫り退らるるいと小小頭頭の甲を著す緋織の覆小身
を圓め又人張の弓矢抜く諸樓小登り殘らるる一と不在八思那漢尉鬼武といふ人
らん王家の太祖琳登太子なり二十八代の恩流を汲み今一朝小恩を志き王君小討ま

清矢と射かる犬小も足らぬ小も劣まり可憐矢の根を汚さ小似れど武恩を報ぶるる矢也
小向てんよといふ小長き矢束とち番ひ引張き矢射うけり折しも暗夜の正ると奇
手いさ小炬火とち照と著る境の星小輝くと月的とさるる一筋も空矢は進進勇
士三十人同枕小斃とりか所小陶が家小各を済する十六路。浦津小林小村野田長津
田原河内長谷尾津川を始り楯を衝き関を揚げ葛地小押おまも遠回るる寺也
脚へき小あささ義隆ハ裡の方より山路を越り長門へと志を落ける海を相小及びて也
恩電の旗をさす小十ある息女を伴ひて出るまは歩も列まぬ山路小木の根巖角滑
小或ひに足踏きりやちる腹を頼り滴る血をわらひる涙をぬきおらも從者も判代
要時此方小想ひせて拒君小常りやう。前を著しあふとつら小小なる大峯山に雲の晴る小
影をそ山の嶺の梢小歎くら頼り小使は首を振りてやといふ末。援は遠小こまをさす
峯山の紅雲也。あうわけの故さるるんとと爰位那妙小御下は是を笑ける武士等也。公孫子の謀を

湯一け。依もあるべき小あまきま。人いそをたて。秋もあつ。落人。多し。小身小。秋嵐。小樹の
 梢のまぶさ。若も故うと。法皇。石小走。洞水のま。小も。膝冷。漸く小。七府川の雲。大雲子
 の色。小。小。勅。乃。漢。彌。の。ま。き。ひ。心。善。提。の。雲。霧。ね。ん。頓。て。の。寺。小。入。る。小。大。内。家。の。妹
 まで。世々の善提。所。小。より。住。傍。出。て。度。く。請。下。有。為。轉。後。の。世。の。景。勢。を。頼。小。嗟。歎。し。り
 けり。然。小。陶。が。軍。兵。皆。ハ。後。の。跡。を。慕。ひ。ひ。名。近。付。ね。と。せ。え。く。初。て。小。長。門。越。え。と。あ。く。小。悔。ひ
 ぐ。小。雅。兵。の。子。小。樹。也。鞍。馬。傍。小。曝。き。ん。より。小。自。害。を。小。若。と。則。寺。傍。小。視。を。乞。て
 初。の。人。由。り。人。由。法。と。り。小。如。露。亦。如。電。應。作。如。是。觀
 と。書。て。あ。ま。筆。を。抛。捨。け。し。ま。坐。小。あ。り。あ。小。堂。上。に。坐。せ。あ。く。料。紙。と。と。筆。を。深。て
 秋。風。や。ま。着。が。糸。小。風。あ。り。て。恨。む。砂。の。雲。の。久。ま。ま。く
 足。下。の。煙。も。雲。も。半。天。小。さ。を。ひ。一。風。の。ま。ま。由。砂。ら。び
 ち。あ。る。消。ゆ。け。の。ま。ま。小。い。吹。か。く。松。風。の。ま

大内從二修義隆

二條藤房信

冷泉判官隆豊

長祿右衛門大隆景

末のあ。下の末と法と小。あ。く。色。先。ど。の。世。の。懐。ひ。と
 不。來。不。去。無。死。無。生。今。日。雲。霧。峯。頭。月。明
 ち。の。原。後。も。と。と。小。界。は。か。く。義。隆。二。通。の。書。を。封。下。相。良。遠。江。守。氏。任。小。安。祐。不。日。小。達。小
 へ。と。あ。る。武。任。も。諸。共。小。死。小。殉。り。と。名。ひ。一。く。遺。書。二。通。を。托。せ。し。ま。法。く。を。之。出。て。ま。る。石。見。金
 津。和。野。小。さ。越。え。若。見。大。務。大。補。正。頼。小。に。ま。二。書。ハ。安。後。小。到。り。毛。利。備。中。守。隆。元。小。と
 一。の。身。ハ。本。國。筑。前。の。尾。花。の。城。少。守。に。は。依。も。彼。迂。賊。等。寺。門。隘。一。と。入。け。し。義。隆。と。依
 め。一。族。不。從。ま。る。小。自。害。せ。り
 按。る。小。の。時。小。際。三。石。川。の。札。を。避。て。小。在。る。月。卿。雲。客。多。き。中。小。弟。自。白。藤。尹。房。弟。友
 太。信。藤。公。頼。方。中。將。藤。氏。豊。ハ。害。せ。し。ま。の。ひ。け。中。納。言。藤。基。頼。從。二。修。右。兵。衛。督。友。親
 世。當。ハ。三。利。隆。と。逃。亡。し。る。哀。ま。と。も。悔。ま。と。も。い。へ。う。い。あ。ら。ざ。り。け。り
 再。説。の。後。陶。情。信。豊。後。の。國。主。宗。麟。が。季。弟。大。友。三。郎。義。長。と。逃。へ。し。ま。と。友。國。の。至。と。ま。り

右田右京亮隆次

天野藤内隆良

躬國政を專小に於て不見其長正頼まて安撫國を利隆元義隆最期小遺世書陶晴賢
 が逆心小あり今日既小自盡小及ぶ頼小不日小兵を起し逆賊を誅戮し我勢忿て晴賢を全
 あつて月をて涙小く是半違背あるべきと躬親心小誓ふも陶が威勢大き小此方ハ何とも小勝
 小をて教ふる事と仕出志を遂げば天下の人の嗤とらん種々疎慮を廻らけり小於て三年の
 光陰を徒小過し弘治元年となりけり晴賢難發と全姜と野いやく威を逆國小振隆元
 弟是を憚りいせん後けり小弟小甲川左衛門佐隆景いふ果二十ある進歩のやう
 全姜暴虐小く君を弑すは天下の罪人あり自甘小まらばと全姜と野いやく威を逆國小振隆元
 弟是を憚りいせん後けり小弟小甲川左衛門佐隆景いふ果二十ある進歩のやう
 湯義兵を率ふ果を伐つは天下の罪人あり自甘小まらばと全姜と野いやく威を逆國小振隆元
 弟是を憚りいせん後けり小弟小甲川左衛門佐隆景いふ果二十ある進歩のやう
 克つて天勅を以て彼を身小す天罰を戒め小ゆる難さるあまきといふて安て元就もこの後南王
 極せりと則備中守隆元小書を造りて永却小却せ天朝所却をせとて全姜誅伐を許し
 の此より石見の正頼小者國中の兵を催し不日小發行きんとし陶全姜を討て安て元就もこの後南王

彼が分際を以て秋大教を授んと企つと諭ふ事とて大満を埋んとまらば一彼を討つは我々甲小あり
 六万余騎を率て防別を命ず安撫小向ひけり（此の時元就全姜を討つは我々甲小あり）元就もこの後南王
 言正頼相を以て任を除大内小因も諸士を招り以て國兵共小合して漸く二万餘騎吉田の城を
 雷蔵と全姜を討つは六万の大軍を率て海路小進め厳密に責めんとわけて安て元就もこの後南王
 大陽小隊と大内起り波濤宛も枝干文逆浪岸を流す小因も船で行き安て元就もこの後南王
 の初むを待下陶が兵船艦船を揃へる海面小屯を置旗を天小懸せ千里の海上陸地小似
 已然小大に元就父子まづその隊伍を定むる小甲川隆景と若見正頼大平小向ひ大に元
 就嫡子隆元在り元春完隆家上原元祐小揃小むる然もこの風小遭て船を操り
 と懐り穴穿く岸を小隙けり夜半小元就の命を奪ふも怒るもこの風小向者ハあはれとて次
 ら斷つ備へを待けり（此の時元就父子まづその隊伍を定むる小甲川隆景と若見正頼大平小向ひ大に元就嫡子隆元在り元春完隆家上原元祐小揃小むる然もこの風小遭て船を操り）
 備を定しと陳小觸知し船中平除被小業を教給小を付とも果て教備もあはれ十分小

備まり。時分りたるを火を奉て一撃不攻蒐む。さうの大軍大不慌と更不戦んとする者あり。後世
 列を通まん。元就が兵數陳と敵の軍糧を焚く。全善大不根拠。元就の兵追撃て竟不
 して報け。大友三郎義長も。長門の走つて自殺す。使者あり。使者を以て。永劫に注進
 あり。天皇皇威感。さうは。自今に法隆領せ。八箇國で有力朝廷を輔佐す。と宣言を
 揚る。さうは。幕府も。由判で揚て。授受。残黨。早退。討て。去。昔。廣橋大納言國光を
 と。作。物。さう。元就君恩。身。小。陰。屠。禱。謝。あ。陶。が。殘。黨。を。討。滅。し。西。別。中。國。大。威
 せ。る。ひ。流。元。も。亡。て。十。別。を。有。言。け。り。か。え。後。永。隆。三。年。元。就。父。上。洛。す。將。軍。家。が。不。得
 け。る。と。序。を。見。て。即。僅。の。費用。を。款。ふ。時。や。正。親。所。院。去。る。年。位。小。即。の。由。も。天下。悉。く
 戦。國。不。之。皇家。疲。弊。財。用。全。く。二。年。不。及。び。今。日。も。踐。祚。の。礼。を。以。ひ。る。元。就。歡。て。款
 ぶ。天皇。大。不。所。感。あ。て。元。就。と。大。藤。太。夫。小。任。下。兼。桐。の。所。紋。及。び。屋。形。等。を。賜。ひ。け。り
 後。大。平。元。の。時。小。元。就。陸。奥。守。小。任。下。隆。元。大。藤。太。夫。小。任。比。の。人。但。兼。桐。の。所。紋。の。と。を。え。む

北條氏康

年盛元就同

北條氏康者早雲孫氏綱子也三世相
 票而高其門至氏康攻擊上杉氏逐之統
 領關左八州兵威漸振世居相州小田原城

備小も氏康が武備の熾なり。人々も知所之。ま。和。方。成。ね。て。け。し。淮。秀
 逸多。武。夏。の。大。も。三。層。樓。小。登。守。凍。け。る。を。り。ふ。一。孤。の。唱。け。る。を。近。勢。小。債
 せ。ける。人。々。こ。も。り。不。祥。の。う。い。ひ。け。り。氏。康。と。も。あ。む。む。夏。ハ。ま。の。後。か。く。障。の
 かし。衣。も。さ。し。か。身。の。上。か。ま。さ。ぬ。地。也。け。り。夜。明。く。を。さ。か。孤。死。く。あ。て。け。る。と。ぞ

平相國

〇八

群玉堂藏

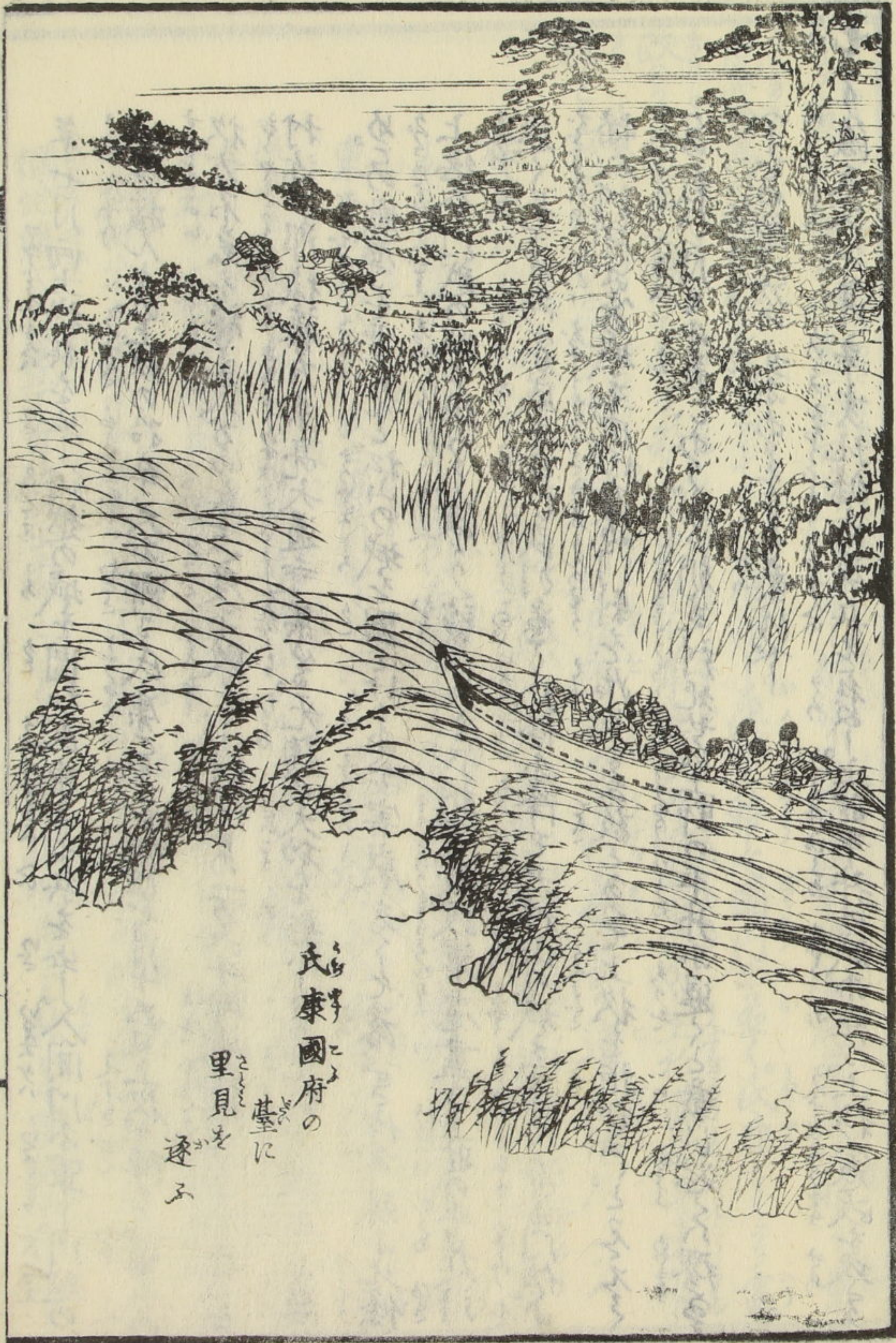
平相國 北條氏康
 新九郎 比叡左京大夫
 氏康 左京大夫
 氏政 左京大夫
 備小も氏康の武備の熾なりと云ふ事
 とつては元就の事なり
 たり云々云々

北條氏康の話

あはより前祖父北條早雲相模小田原の城主大森統常守と交り常小田原の友より
 或とき備前を窺ひ將小假託て大森と逆ひ竟小田原の城を果取て小原を脱小
 之世小及ぶ氏康が父氏経も武畧あつて道西を靡け漸く威を熾ん小は然る小氏康は智
 量拔群ゆゑ徳父祖小越言六開東の兵士多く従ひて頗る勇名を馳るも小園東
 の管領上杉憲政上杉朝定ハ山の内扇谷の兩上杉と称して世東國の豪族を自負し
 が者もあつた小氏康は兩家を擇て開た八別を掌握せんと企て兵を出してととと敵ふと
 殺回氏康再度利を濟すといども河津孫倉の舊家もさへ輒く言を逆ふと懐いども然
 る小今年天文七戌辰まゝく氏康兵を出し武別入間川の志小陳をその勢八千餘騎と見
 兩上杉と交り八別兵八万を率ひ出てとと小會戦も氏康十分の一の兵小更小敵對と
 戦いども一戦小及むも引退く上杉の兵さもとあつたと凱歌もて兵を還せ氏康まゝと

兵を出し孫倉小迫り近くさゝと上杉兵を進むもまゝ退りて城小入り敢て戦ひを挑
 むと上杉が兵をさして氏康が軍も小足らばくと將年と小夫小驕り意慢くと
 備を設け保るといふも氏康密小間を放つて其懈りを見澄し頃八月十九日
 半の兵を三隊小領け上杉を陣を襲ふと更小霹靂の奔多如し其軍不玄小出て了
 濟大軍一時小紊れ敢て戦んとする者も蹤跡とて遁と奔る氏康頓り小を撃つ
 小於て扇谷の上杉朝定ハ討死し尚の上杉憲政ハ孫倉小入る上野の圓平井小走
 る氏康勝小果ととと小迫る憲政今ハ戦力竭て終小氏康降しけし氏康古河の晴氏
 を妹尊とす晴氏の弟頼純をて下野の喜連川小居りしゆけり小於て上杉の威を
 一朝小衰果氏康八別小改名と張る

後太平記を按る小北條氏綱氏康威を熾ひ去ぬ享祿三年より氏義小後
 上上杉と争ふと二十三年悉く勝利を濟て一族上杉小を川越小並くと其後天文七



氏康國府の
 里見を
 遂ふ

百子傳二巻之十一

早

群玉堂藏板



百子傳二巻之十一

群玉堂藏板

年七月四上松兵を率い川越の城を圍む。氏康等て兵を率い入間川小軍川越の
 城を援んと上松の拍卒大に懈る。氏康等て兵を率い七月十日。上松を陣を破る。上
 松方不意を奪はる。八万の兵士一度小敗走し討つ。一万余降。北條方は遂に志
 村赤江。那後藤。左。東。亮。大道寺。某等。无類の大功を彰けけり。上松方散卒を聚
 め。その戦奪を雪めんと。松山の城を圍けり。小要害。嚴く。て。落さず。侍。小。北。條
 上。松。今。川。越。の。城。を。拵。つ。後。より。襲。ひ。け。り。初。定。憲。政。軍。慮。盡。き。上。松。の。平。井。八。門
 邊。く。是。より。兩。家。威。を。失。ひ。武。別。悉。く。北。條。小。降。り。天。神。山。の。城。を。藩。田。右。衛。門。佐。小
 幡。二。河。守。忍。の。城。主。成。田。右。衛。門。尉。を。拵。め。ま。ま。故。と。つ。つ。上。松。を。拒。む。と。ん。ん。ん。ん
 との戦ひ。月日小差ひあり。ま。初。定。討。死。せ。上。野。の。平。井。小。退。く。と。載。以。て。入。松。を
 へ。て。後。松。次。の。文。小。あ。を。と。と。ま。ひ。下
 是。より。後。天。文。二。十。年。辛。亥。北。條。氏。康。兵。を。率。い。上。松。平。井。の。城。小。在。り。上。松。憲。政。を。攻。む

け。憲。政。防。禦。の。術。盡。て。則。平。井。と。没。落。一。城。後。小。幡。王。國。主。長。尾。景。虎。と。執。事。景
 虎。窮。鳥。の。懐。小。入。る。を。憐。れ。と。て。之。を。保。護。一。屋。形。と。稱。す。國。内。小。幡。と。氏。康。等。より。憲
 政。の。子。孫。を。捕。へ。て。是。を。殺。し。關。東。悉。く。掌。握。以。り。時。小。幡。つ。つ。上。松。憲。政。關。東。管
 領。と。上。松。の。稱。号。と。景。虎。小。幡。因。て。長。尾。と。更。め。上。松。と。稱。さ。り。遠。江。後。藤。氏。の。領。地
 按。小。氏。康。の。祖。父。早。雲。三。國。寺。の。城。小。居。て。諸。國。の。凡。て。監。禁。一。東。別。府。に。在。り。後。藤。氏
 一。と。憲。政。の。士。由。こ。多。く。海。内。を。係。せん。と。志。を。有。る。者。ま。東。州。を。執。り。在。り。と。關
 東。を。相。窺。ひ。上。松。氏。と。拵。肩。ま。り。連。年。小。及。ぶ。も。彼。家。の。多。衆。な。り。頼。む。を。果
 以。小。至。ら。び。子。孫。も。相。統。て。卒。除。年。の。今。小。至。を。遂。小。上。松。と。號。し。て。東。州。を。統。ぶ。
 初。め。上。松。憲。頭。長。利。基。氏。小。幡。佐。と。り。列。侯。を。一。し。り。斯。小。至。を。子。孫。相。嗣。と
 十。代。百。九。年。小。幡。竟。小。北。條。氏。の。為。小。幡。を。亡。る。と。時。小。幡。つ。つ。天。下。の。大。將。天
 細。地。維。一。下。降。て。有。德。の。士。あり。と。い。ふ。も。ま。ま。を。保。全。さ。る。と。結。ぶ。關。戰。の。術。と。す。

武田信玄の一族及び家人松平久秀、逆威を畿内南海小倉、織田信長、美濃尾張小出、今川義元、駿遠を徇、武田信玄、甲信小發、氏康、關原、別を統、依竹義重、常陸小在、屢岩城、近國を掠、葦名盛隆、會津を領、長尾景虎、越後小在、屢關東の動靜を窺、胡倉義景、越前守、畠山、河内、結、登、兩別小相分、陶全、姜、防、長を押、領、毛利元就、安藝小起、尾子、晴久、出雲小在、隱伯、和の三別を併、大友宗麟、豊後小據、新造、寺、隆、信、肥、前小居、島津氏、薩摩を保、その除、黨を樹、兵を蓄、關原を割、據、邑、里を争、ふ、の、一、枚、拳、を、小、違、わ、び、海、内、大、小、動、乱、せ、り、

初て氏康下総の國府基の戦ひ小見義弘義高父子を切崩し、勲績を關東治礼記及び諸書小頭然言ふ、小教也、

武田信玄

人皇百七代正親町院天正元年四月卒
 今安政三丙辰迄二百八十四年、成

武田信玄者初名晴信新羅三郎之後

也勇而用兵破義清長時而領其邑與

氏康信長相戰而爭其地世多稱其謀

策長尾輝虎其敵手也

俗説小見武田信玄ハ曾我時政が再生と何小據て吾我ハ小見既小井沢
 瑞竜子ガ俗説辨小見を載てその説を破る。父信虎を逆しを見生涯
 の瑕とす。その本傳を看る小至つ。實小止ガ死所也。その満ハ具く措り

鎮守府將軍頼義三
 男新羅三郎義光ノ男
 刑部三郎義清甲斐國
 武田三任ス因テ氏トス
 十七代孫
 源信虎 左京大夫
 孝令別當兼兼盛
 晴信 大膳大夫
 信繁 法名信玄
 左馬助
 勝頼 四郎

長尾謙信

同帝天正六年三月卒
今安政三丙辰追二百七十九年成

長尾謙信者發兵于越後與武田
信玄相戰與北條相挑入鎌倉而
不能久保焉改氏上杉

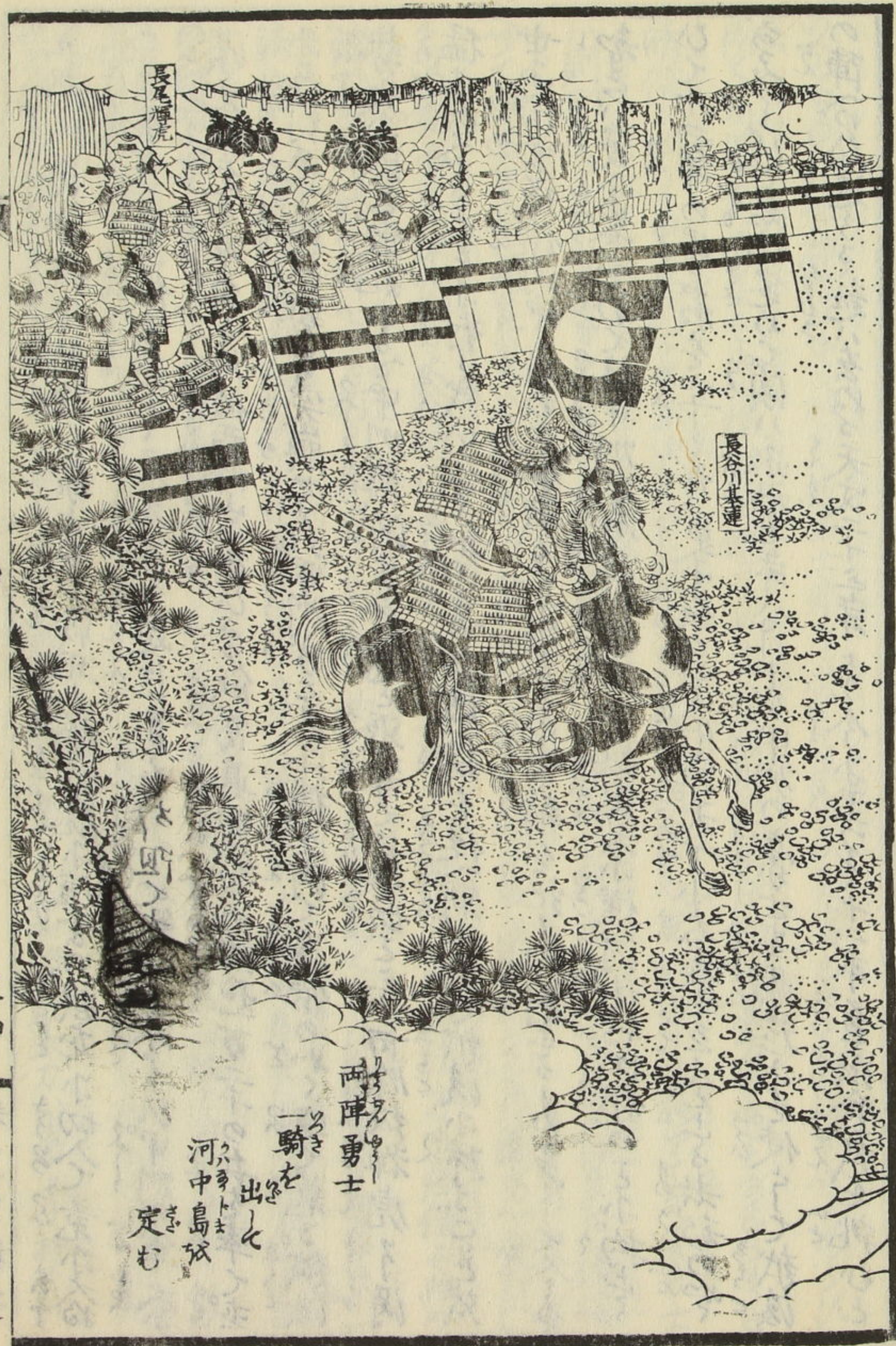
智勇兼備者といふ人少し謙信は幼少して本國を退くとき合津新去湯といふ者こそが侍なり。米山越の絶頂小至り。そぞは陣所ある。後年兵起り小至らば必らず陣せんといふ果ては是より十一年後ら小陣と預城古志府内とる。實小移ハ一寸小と昇天の氣を食むといふも宜なる哉と傳小のり

村岡五郎良兼ノ六世
景勝二男 景弘長尾
ト稱 景弘ノ末葉
高景 長尾景前守
法名 魯山
國景 上総介
三條城五
頼景 左門佐
重景 信濃守
能景 信濃守
為景 六郎
輝虎 彈正大弼
法名 謙信

武田信玄の語

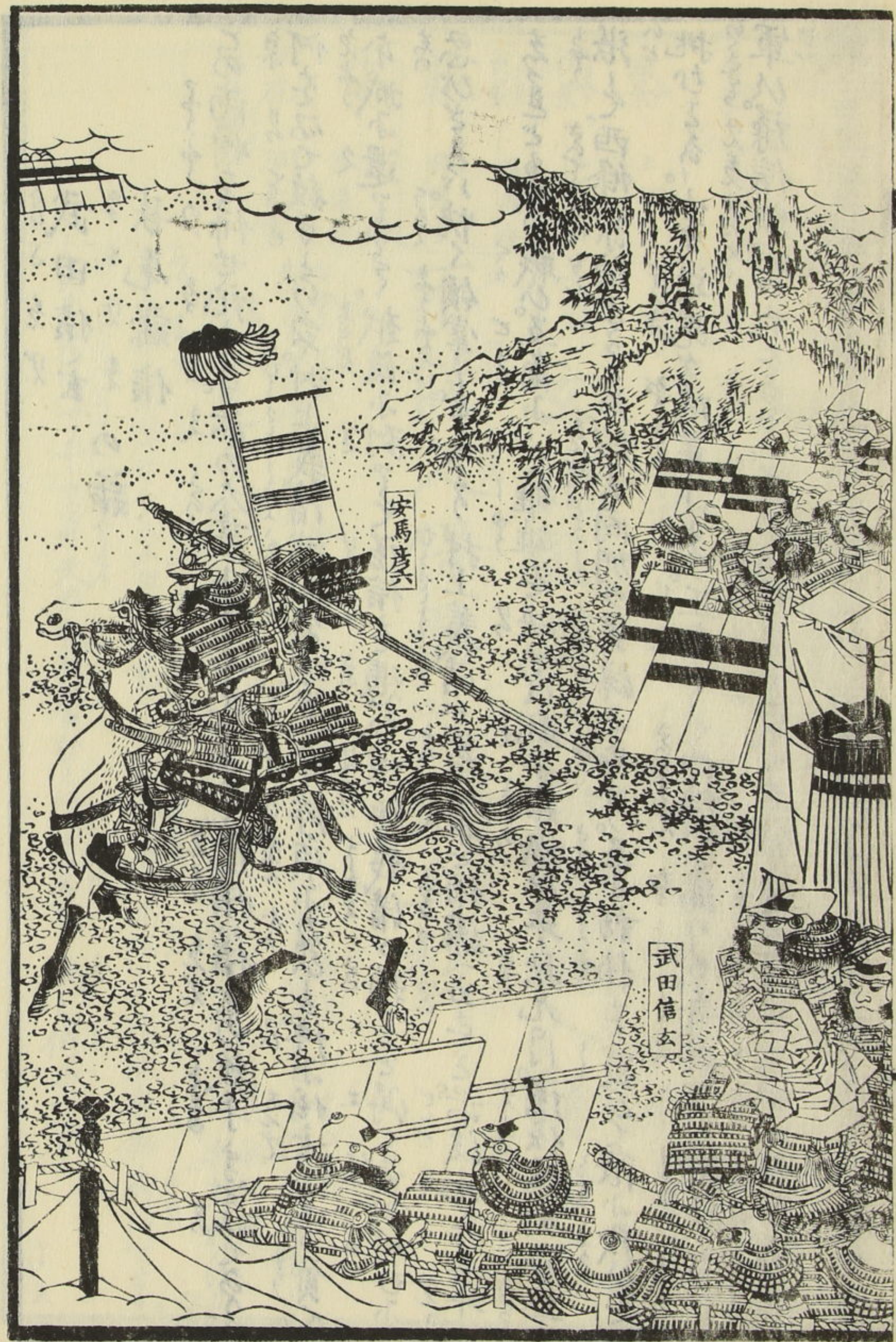
長尾謙信

この両將を併せ祀る。前の大書小もつをえうとく。謙信は信玄の教手とを以てあり。何を以て教手とあり。村上義清武田家と累年并盾小及び終小信玄小うち負て本城小還りて。越後小到りて。謙信を憑む。強信義清が頼むを得て。是を拜む小。忍びざる。快く領掌しとより。村上義清が為小軍と信濃へ出ると。前後凡て十三年。あるはともその戦ひ。五南少く。雌雄を決せ。既小永禄己年秋九月。謙信は別小出。張と西條山小陣と死。信玄同別の貝津小出と。五小動棒を以て。隈小戦ひを挑む。山本道鬼が豫策小す。正兵をて西條山小筒り。奇兵をて河中小為小軍。謙信炊烟の氣を察し。密小河中島小出づ。小放て武田の謀計。忽地小齟齬。雅雅戦となり。小甲小名を濟る。武田右馬助信繁及び山本勘介入道。道鬼初鹿野源



河野景虎

十四
洋
三
織
坂



河野景虎

群
五
堂
藏
本

五郎諸角豊後守其餘の豪士多く戦死し謙信が小信玄の旗本小切入を免れ大將の命をせとる信玄危あく及えざるを近臣とを大將を令う以甲州の軍本潰え敗走不及とのた彼西條宗對ひ方飲富真田以下の諸將一万二千の兵を率て垂小へ引返し越後勢を突崩せり甲州方と小機を潰て奇雷の如く突て蒐る越後勢大敗と散礼とる甲州勢潰るや應と逆撃て首切とて千石餘級輝虎り得猛しといふもこ小對し戦ひくく和同喜共清一語を從へ漸く小越後小降ること成世小信玄謙信川中島の大合戦とて近曾の事蹟を記し印刻とるもの多し人々智とる愛小畧と初て後甲州の名は且信玄も熟思小僅河川中島に郡のこ小拘りひて十二年の星を空しく更小益とる不也天下小大志と云んとする者初のや多きと必ひ定めて瀨川永祿七年八月十日甲州の豪士安馬彦六を使うて越後の陣へひ送る越ひ去ぬる天文二十三年より今小至つて十二年星夜合戦を挑むと

又ども更小雌雄と決する時多し佐小士卒を勞し且生民を害さるる情信が心小あり以て遠田人の勇士を以て組討をせしめ其勝敗小從ひて郡と貴方の有とまざるまこ情信が納りの差別をこ小決せんとなむこの後如何小いや甲州方より冠り出る勇力士ハ則別人ありしか言と安馬彦六越後の勇士と勝劣を較ぶ所といひ入は謙信皆て信玄より謂とる已も疾より心あり然とて明十百午の刻小その勝劣を究むと返答あり甲州方大將情信を始めとして出張り陣を列ぬ越後方も謙信を始め諸將河川中島小陣とる折る例の安馬彦六物の具爽小出きて白月光の馬小乗り只一騎餘くと謙信が陣小向ふ所小越後方より只一騎從容とて出来り小小差小小兵の氏者少く多し小小けり馬小乗らうかく馬上少く大音あげこれ四程で出は謙信が家老より斎藤下野守朝信が家士長谷川共五郎門基連より小兵多しとも高小小入り其六刀称る組討を以て雌雄を決せん但し小勝りありとも加勢助太刀小素より禁示以

尚りれを祀りひりのハホク弓矢の疵を一呼ぶて無遠ひ表す小者と組む双方擇て將と
 の力士基連小兵多うといふも力ハ殺十人小對を見左右を下凡小之以安時馬
 上小採合も鞍小不採撞と落て互小曳やと採合を長谷川竟小組敷諸軍あらぬ
 とる小基連まも採返し表を組敷よとええが忽地首を採落し働まあらう
 妻を張り甲別小鬼神と交え安馬表を付取うとる多小呼まし其後方指て抑
 き込ひの表山河小傲を甲別方小小兵も似ど小兵多長谷川小勝りての残念さ侍
 小あ也旗を勢二千誘をると怖え多突出んとはけを信玄連ま呼留め諸軍動
 ぶとるれ鬼神小の歎くとの安馬表を中の小男小討とここは味方の不運と
 いひ天の怒りむす下あるん殊小最初うりの約諾あり今討出て乱をましこれの約小
 乖ふ多不義の行名と被らし速小河津河の郡を渡りと後信と水く弓矢と止む小
 ぬびと軍使を必ずとると後信小の小賜るこれうに郡小討後領とり村上義清高

梨波賴河中島停り住むとは保ある義信が義信と出所多とま長谷川の勲績と
 の勇力を感ぜぬりのは雨多て後ハ甲別討後更小兵と接むとは是う希小禄二年已
 未夏五月長尾景虎上洛とお軍家義輝小獨津の字を賜ひ輝虎と改め園東
 常領職小仕せとま上杉憲政が讓を得て氏を更めとま上杉澤正大獨輝虎入道
 不識菴謙信と身けけの兩羽を甲乙とまふのは勝り方は表小双方の敵子多然
 且とも謙信素う義を專らうとて敢て掠め欺くとる信玄今川氏真と確執のこわりて
 之の因を終小及び氏真北條氏康小捷と申甲別と申ふをう力を必ず教が甲雙入元
 末山園の海鹽をの地小表せびとをと氏真氏康高賈と禁どと甲別へ陸と獨をを
 止む因て園中大小園多む謙信とを交て嘆といふ彼二家武を必ず敵がと杜謙再悽
 下策とり園氏を苦むらと必ず憎む武田小雙ありといふもの氏の幸とあと夫
 一書を甲別小賜るの詞小と余と足下と申ふ所と武小在也と申ふ後相相讓北條

の下第余々く之を憎む今より商賈を貴國小通北陸を賂ふ。玄小任せて之を取れと
 賈人小命を去りて送す。小最價を與ふむ。甲別の人傳聞して深く其義を感ひて之を
 信の失ての軍略兵法腹小充てても勇武除りあり。之を以て隣國と小兒の如く輕蔑し敢
 親と睦むと色聲只北極年春二月大兵を率て小田小迫る。其時威權並ぶ方より關東の
 諸士と小應し。雲の如く屬從ふ。後依大威名を傳し。鶴岡小系治と諸將路の傍小出逢
 俛首平伏と之を致す。時小成回下總守長康諸將と同志く路傍小あり。俛首前坐る
 一輝虎看て无禮を怒り。扇を以て其面を毆つ。長康大愧憤り。城小帰つて之を教く
 諸將も之を輕忽勇悍人主の乳弟小あざむぎて之を殺し。雜教とて之を援けし。輝虎羽
 翼を失ひて奈何と由する。兵を引いて帰せしむ。於て是等の比ひる。近國と
 其威を恐る。親と懼る。のあざむぎ人の所謂純烈をり。此を亡びとの小近し。
 小尾別平の信長天下を併吞する大志あり。然る小信長隣境小あり。屢尾別を傍ふて

患へ。永禄八年冬十月姫を養女とす。信長の子武田四郎勝頼小妻合せんと依玄
 是と肯ふ。女を甲別へ送し。其親と深く之を護必教とす。永禄十年
 小至り。信長信玄の女を以て嫡子信忠の室とせり。小於て婚家の賂とて厚く
 然後の諸將と之を愛す。其主輝虎を大嫌。隣境の國を勸む。輝虎と之を然り
 して。北條氏康と和睦し。其子三郎と養ひ。景虎と稱し。かくて後輝虎北陸
 を徇。天下と平安定むるの志あり。天正五年加判を征む。小同公松任の城。信長と之を
 里。城王松任彦城。大嫌。信長が猛威小怒り。忽地小降し。信長勝小果て峻岩を捕
 せ。圍中を壓して威縮溜す。信長松任を殺し。兵を率て出張あり。路中加
 別の大統と之と挑戰す。比と病を称して帰せあり。かくて後信北陸の勲別を廉け。武
 治を攻んと。信長松任彦城中飛彈。後依度上野庄内の兵士數万を催し。北は雪いと
 深し。雪浦を待て。來命を期し。天正六年春三月兵士と之。然後小來り。信長兵と圍り。法

心を定むる小然前小發せんとい時小病悩暴小起り病むと寝く五日小て。同月十三日卒
 去せり。行年四十九とある。此元一。小武田信玄ハ禪虎との号。矢を止む。且信長と好を通り。
 是より後遠之を累し。北條氏を斃せんとて。その間を窺ひ。永禄十一年甲辰を空し。後及
 八幡坂小陣を今川氏真。後遠の兵を備へて。その防を然も。今川家の舊將。今川氏真
 が。信長之浦義鎮。今川氏真。惑はさして直信之跡。下。陳信を戮む。因て氏真と怒む者多
 く。敢て戦力を弱き者なり。甲之。後遠。旗を遣て。後府小降る。其の寡。今川氏真。奈何すこと
 あり。周章て。後川の墨。小毒。後及の士。信玄小降る。甲別の兵。勝小衆。尋て。後川を攻ん
 と。後と。信玄。極め。北條氏の。あり。援。んと。慮。以。浪。津。久。独。り。て。士。率。を。越。果。し。北。條
 氏。康。氏。政。大。兵。を。率。て。氏。真。を。救。信。玄。山。中。兵。衛。小。千。五。百。の。兵。を。援。け。後。府。を。守
 ら。せ。騎。八。万。八。千。餘。兵。を。以。て。浪。津。小。陣。と。北。條。小。對。し。互。小。守。り。と。九。十。餘。日。一。戦。不。及。を。以
 雙方停戦以

附てい今川氏國親。建武年中。封を被。列不受。け。こ。小。至。つ。て。二。百。二十。餘。年。十二。世
 少て。封。盡。り。四。史。略。を。業。む。小。氏。真。暗。弱。り。て。後。を。信。下。且。壁。は。三。浦。義。鎮。が
 勸め。小。より。遊。戯。を。事。ら。ひ。曾。て。その。四。俗。中。元。毎。小。士。女。藤。坂。場。を。設。け。福。祿。一
 て。競。ふ。り。僅。俗。小。こ。こ。を。盆。踊。と。い。ひ。氏。真。大。小。こ。こ。を。ね。盛。や。小。こ。こ。を。行。り。む。因
 て。國中。靡。然。と。り。て。新。様。を。出。し。衣服。調。度。小。美。を。飾。り。香。粉。を。極。む。の。こ。こ。以
 民間。性。耕。織。を。廢。を。示。の。こ。こ。一。容。小。の。踊。を。出。し。を。業。む。士。の。窮。乏。を
 者。小。至。り。武。比。甲。胃。鞍。馬。を。齎。高。き。その。貴。小。給。む。あり。冬。小。至。り。坊。止。む。毎。年
 斯。の。如。く。ま。ま。心。あ。り。が。長。き。い。こ。こ。を。陳。む。と。廢。ま。す。と。氏。真。更。小。用。力。ぬ。の。こ。こ。
 却。て。こ。こ。を。跡。と。遠。き。因。て。廢。下。小。屬。す。る。豪。雄。多。く。難。を。時。く。小。至。り。故。に
 以。て。甲。軍。の。跡。小。及。び。て。防。ぐ。兵。多。く。忽。ち。小。國。を。亡。ぶ。氏。真。の。ま。ま。若。年。と。り。死
 その。父。義。元。書。を。作。り。氏。真。を。戒。め。て。い。ふ。若。既。小。成。長。て。い。ま。幼。き。心。を。棄。ば。窮。を

開リ物と走り。又或西多る廢を今とて懐めざる。邦覆り宗滅びんと此世とて
 意と各々。竟小の言の如し中井積業の如く。今川氏先世已有庭訓語意撰實今
 高行子旨俗。又加以義元氏規戒之切寔有先見之明而氏真懵然可嘆爾古
 稱知子莫若又猶信と云を妻小遊戯と好む人君を戒むる小足りの如し
 永祿十二年十二月信玄再出兵と出。後攻の九城有る陷金北條新三郎守る處の浦原の
 城を落さんと久保園守を降らば信玄謀計を以てて取る新三郎討死と夫より後府を
 降し身と相渡豆の諸城を壓して武田の威風熾々天正元年四月小至と信長と相戦んと陣と
 明達來寺小進むと下下信玄病發して信玄と信長と信玄と信長と信玄と信長と
 也也。即勝頼の子信勝小藤。勝頼をして後見せしめ四教の文給及以攻守の權を以て法
 小令と終小藤と之を一作。大抵還他肌骨好不塗紅粉自風流と竟小卒と歳五十五諸
 將凍つて喪を察せぬ病を拵く國小淨。極小蓬來寺小葬るといふ

齋藤道三

同帝永祿七年被害
今安藝丙辰道三九十二年成

齋藤道三者初起自微賤領美濃國
 顯於世其女嫁織田信長

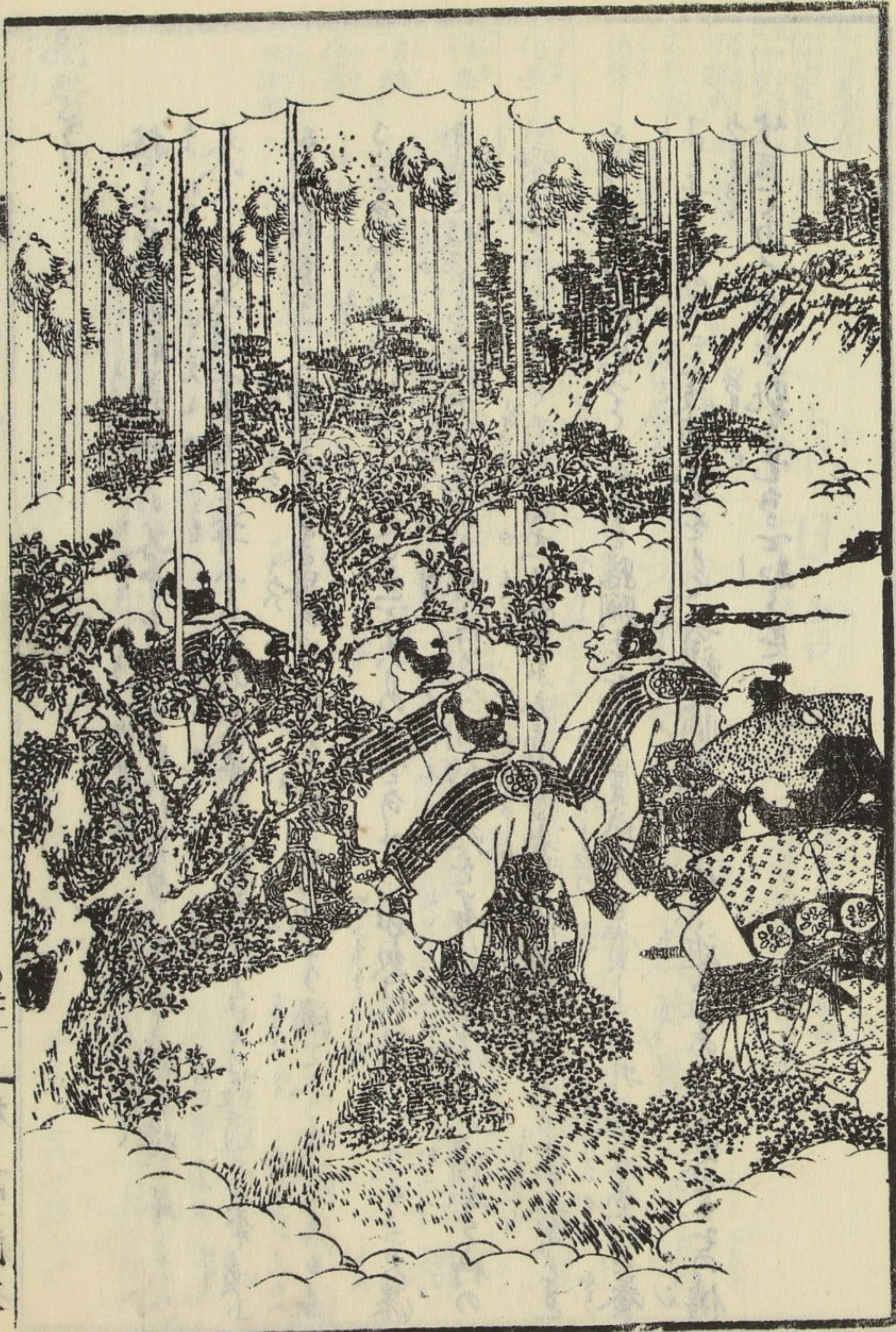
姓氏未詳
 利政 斎藤山守
 義龍 右兵衛尉
 其 善平次
 其 孫次郎
 其 二人兄義龍弟善
 龍興 右門大夫
 今三代僅二十六年
 三子國元七子

道三と云の始め城列西系の人なり。窮極めて負けけり。常小油を賣て業
 と云す。傍秋福を克して美濃小赴き土岐の家元長井藤丸湯門これと
 也。臣と云は道三願の奇才ありて、その主の意小快ひ重く登庸らる
 小及びその主長井次獄とてその地を篡ふ威勢凜然とるを見て土岐由基証
 を加ふ。道三ますます猛威小慕り。また土岐頼藝をも弑して終小濃列を有つ
 小至。列候の員小加り。戦國の慣なかりと嘆ぶる事小あり

斎藤道三の詠

道三素より真奪の逆罪ありといふことども。爰時天下戦國也。まて糾以人もあらず。強きて以て柔とあり虎狼の行も世間多し。信長既小隣國あり。渠が窺ひんと成怖と和睦とあり女を運ぶ因く美濃尾張平均あり。然る小道三信長の動靜と看んと必使節を立我富田の正徳寺あり。舅塔の禮と速んと欲と足下彼処も来今も。我も出てこまを候んと懇小禮遣はせ。信長異後あり承流。日せトめて出張あり道三の行儀と看んと必武氏家小此を潜めて信長が来るを候。この日信長髪を束ひ廣袖を著て馬小清り。その折立異容あり。隨從の健士千五百人。赤馬の朱鍔五百。その長さ三間半と。弓炮各五百挺。道三胸て大驚り。初て正徳寺小入と等一異折を改めて道三小竭以。交金畢して信長と送。後小道三嘆といふ。我子孫彼が門下小馬を轡ぐべとのひけとあり。まて一説小信長乃ち美濃小入て外父と見。時身小洞袖の浴衣を著。漆く鹽太の陰

莖と畫く道三の家老等。まてを郊外小迂へ望。このを發き異之使を遣て若ての思ふ小信長の部俗の田舎漢あり。後て良應の役小。七五三の料理を以て。然れどもその為。能が古後の飲食小。應せ。農家。鹿大の食器を備へ。然て一と若うけり。既小。信長は被封印小入と奇一從者小。令と衣冠を正し。入て道三小渴し。けり。小於て道三は。家人等。まて大小驚き。七五三を以て。是を餐ひ。これ。初飲食物の古。後あり。道三嘆。い。我國ハ。既小塔引出物小。多と。後果。く。その言のや。若の説と大同小。其之後の説ハ。村宗具が著。ハ。所の老人。難。折小。載。る。を。掲。げ。出。せ。り。宗具ハ。一。小。專。舟。と。号。し。小。禄。八。年。小。生。ま。寛。文。に。年。小。死。以。壽。百。歳。小。満。と。を。著。ハ。ハ。折。ハ。蓋。実。録。ナリ。道三。真。奪。を。以。て。美。濃。を。領。し。威。勢。南。東。小。冠。と。し。も。その。罪。責。道三。が。ら。嫡。子。多。義。龍。を。跡。と。その。西。家。の中。と。ま。て。家。跡。を。嗣。多。め。ん。の。家。あり。義。龍。と。ま。て。息。と。大。小。怒。り。則。ち。兩。人。を。害。し。身。之。父。道三。を。弑。し。その。國。を。奪。ひ。けり。その。原。由。新。興。小。及。び。我。子。多。と。て。國。を。逐。し。中。國。小。



百將傳一父諸卷之十一

〇十一

群玉堂藏板



信長多異體
美濃小入
泰山多を
玩弄多を

信長

百將傳一父諸卷之十一

群玉堂藏板

流浪せり

按ふ小右兵衛尉義純その父弟を殺す年月究めて定らるるは永禄七年とのひ
又八年とのひ通之美濃と奪ふとも天文八年より九年とせり蓋道が事蹟小
おけは知多少く油を賣るる畧のほし残を定むるに孔より満り入る小油一滴溢
るところの御稀代きと見せしむる美濃市と云ふその家忽地富となりまき大濃
ふのさ候後を松波九郎と称しけり之間柄の残を若くは家騒くと措かぐ竹の
筒小納て門小迷お干時國主放鷹小出通鷹者若く竹筒の上小あり家人等と
を曳倒に松波怒り家人を蹂躪とを力量武術を賞し小井藤左衛門の養
子とすとのひまき土岐頼朝を以て兵部大輔室初小作迎せしむるといふその傳
は區々してのひ孰も是らとせしむる

織田信長

同帝天正十年六月被殺
今安政三丙辰延二百七十五年二戊

平相國清盛の嫡子
平重盛の三男
三位實盛の男
平親眞 織田推夫
十七代孫
信秀 備後守
信長 正二位 右大臣
信忠 從三位
信雄 左衛門權將
信繁 北畠中將
三法師 神戸三七

織田信長者姓平氏出自尾州取江州奉
源義昭以為將軍擊朝倉滅淺井令其
子信忠攻殺武田勝頼諸州歸其指揮
遂被明智殺

平重盛の三男清盛海不没は幼少あり其母を推し元江淡味田の郷小流落し于時
然而織田の莊の神職の幼子以養ひ家を續して織田推太夫親眞とのひ其子孫相
統で然而小居る斯波氏にて小臣と云ふ後尾張小移る信秀親眞十七代の孫と云

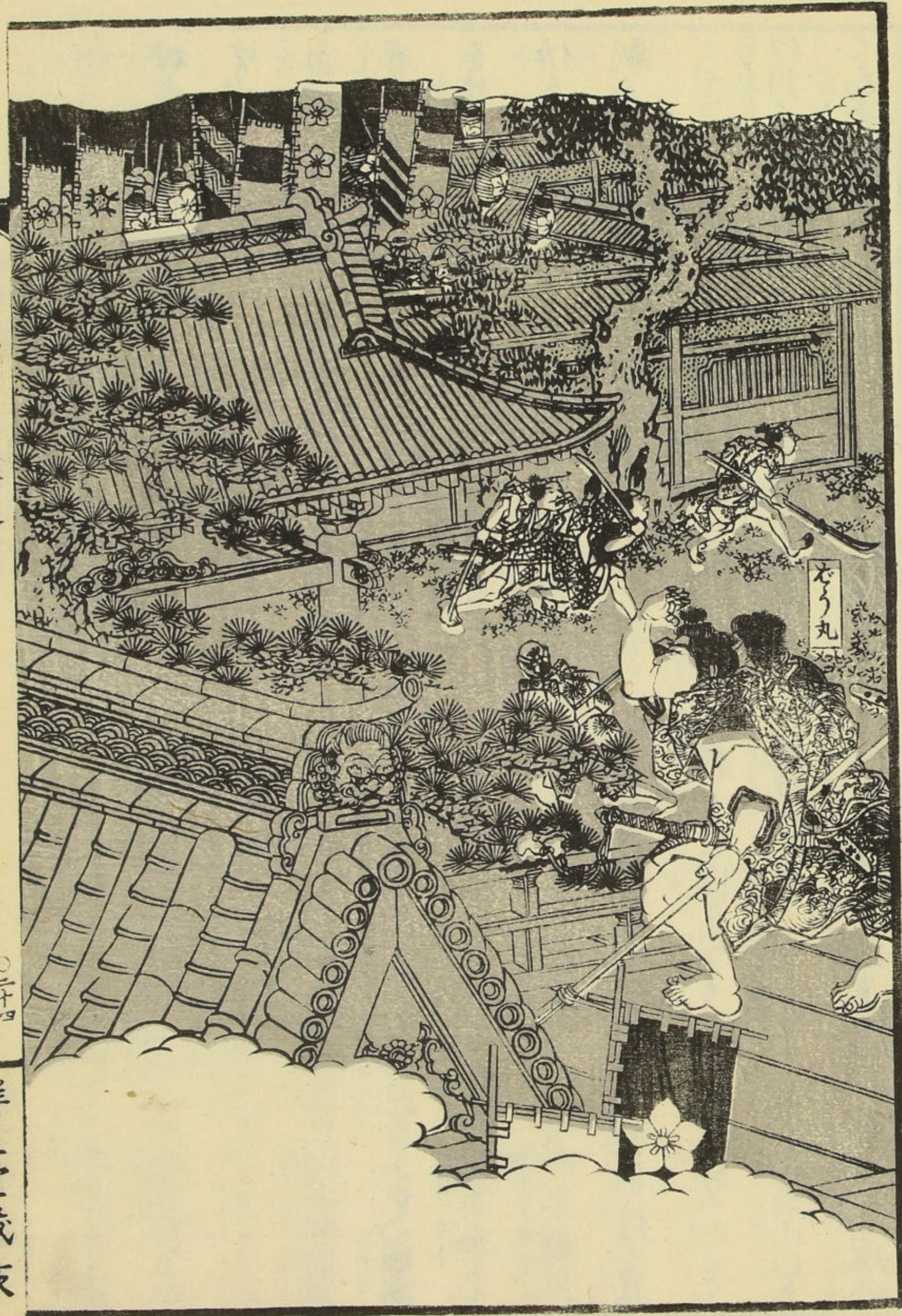
一竹傳の古本に

織田信長の話

天文十五年信長十三歳なり元服あり其父彈正忠信秀諸臣と相謀りて信長を那古左の城に居し林新五郎平手中務大捕青山典之右衛門尉内藤勝助を以て信長の家老とし親古渡の城を築て之を居り同十八年小至り信秀卒す小より信長其の家跡を嗣ぐ其公の勇威武略世々の智所なり今なき贅言小及ぶ既小十に歳なり初めて兵を率て三列吉良大淡小奔向し火を迫る小放つて帰る縁て天下を併呑するの大志ある小より。今隣國小睦之を根を固うせんと齋藤道三が女を娶る。今道三が傳小又其公の公之世の功績奉て尊ぶべきに空多るる我于るらずてさうも天下の礼を伐従へ諸別を屈して己小従りむ尋常の人の克をささ小あはれ就中永禄三年今川浪部大捕義元遠参の三列を累し尾別愛智郡皆徳の里小到るその猛威懾りて尾別の諸城多く降る林佐渡守信長小謂てのそ。彼い多きて我い寡は外を以て之を小安らんと

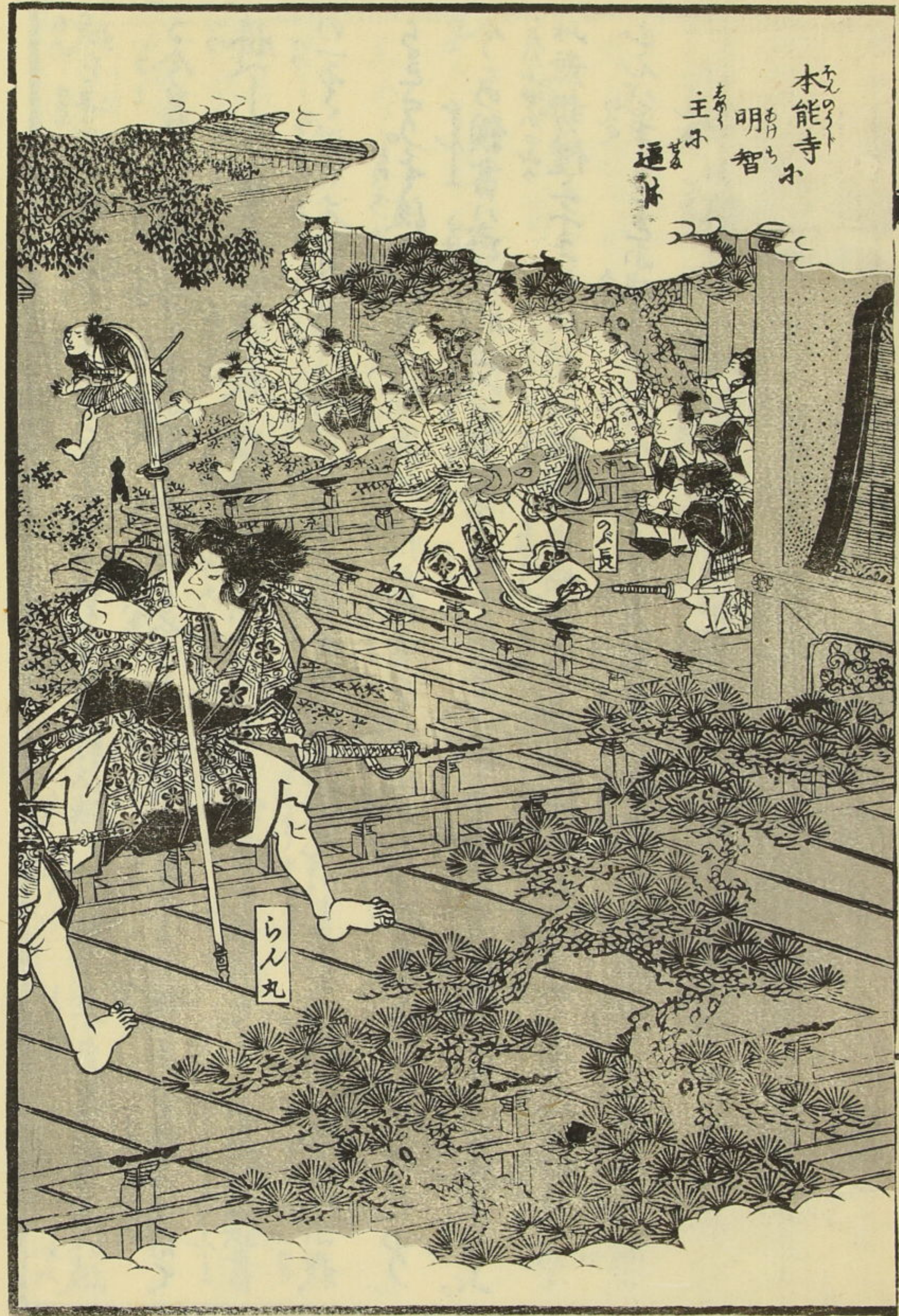
城を守り小若きと信長を安てのそ元七戦ひ勝て將驕り卒息はかろは破る今義元救城を降し更小忍む者ありと必して士卒もささ急り高慢をを縁バ決めて勝べし小勢を以て進發し路熱田の社小詣て二通の願書を奉納とと今本朝之願書の二あり性古本曾義仲が丹生八幡の願書を大夫坊覚明書ひし源平盛衰記我らとて。その後尾利尊成が條村八幡の願書を西田妙玄が作らんと太平記小所見あり。今その願書八武井肥後入道夕菴が作らんと。文中小見えらる處彼多勢に方除小及ぶ此無勢僅に千小足は所謂蚊螂の車轍小安り蚊子決牛を咬かゆ。當社の神力小あり。此んが公平とて小勝とを海んととてその軍勢の衆寡をみる。果とて義元小小橋と

更小天下小教りて捕快間小到り備へを強げど松原の色小宴を信長とをを奏し俄小来り急小義元が本陣を襲つる軍不意小起り海の大軍根拠と防ぎ戦ひて独以義元躬親を執り敵小安り勇を奮とて天運既小縮まりて毛利新助が為小



二十四

群玉堂藏板



百將傳一外話卷之十二

群玉堂藏板

討せり。是より信長の権威強大を順りぬ諸城を抜き尾別一國を領す。至るがごとく永
 祿七年小及比美濃の國主斎藤右衛門大夫義興を逐て美濃を領し岐阜の城小移らる
 け。さき尾濃の兩別小武威を揮ひ武田信玄と因を結び稍小近國を靡けんとす。小
 永祿八年都少小好義繼松水久通將軍家義輝を弑し。その弟一条院の門跡覺慶
 鹿苑院周高をも弑さんとしてその家臣平田和守を遣ひ乃ち平田鹿苑寺小の周高
 を弑けり。覺慶を逐て米田を攻守といへる醫師と相殺し。春日山を踏くは及小少
 依と本義復小憑て還俗し。名を義昭と改め。兄の故郷小好及比松水を誅して將軍職成
 嗣んとす。憑とも小拍節義復の家臣の長臣等と故りて國内靜まらざる。其の縛を果
 一がう。刻々義復の子義弼之好と通して義昭を殺さんと圖る小より。小足を注めがごと
 河別を出て若狭小到り武田義統小依けり。義統悦びて奉迎せり。然れどもその國小に去
 て大事を策す小力足らば故小まて越前小入り。初倉義景を憑まきける。義景去味略

なり。小於て細川藤孝。上野清信を依らる。美濃小到り信長小ありを憑まき。信長
 謹て領美し。とて武士の面目なり。何ぞ祥とよひき。早く大旗を發國小守せり。と不破
 河内守を兩使小副て義昭を美濃小逐。且法井備前守長政路次より從て同行せり
 む。これ信長の妹婿多故多。因て七月十五日義昭美濃小到り。正寺小入り。信長太刀馬
 鎧沈香。纒絹鳥目笠を献す。義昭小拜謁を供奉の士小もき。贈物あり。かくて義昭藤
 孝清信をよと。三好暴逆を誅し。再び京小敵ることを得。亡兄の讎を復さるの。小あり
 む。武田の家と興をよ。一舉卿が力のこと。信長依然とて對し。微は不肖の才を以て
 この大事を奉承し。数邑の卒を以て猛敵を討ん。郡分を討らざる小似たり。とて。君令
 祥とす。小祈り。且君の長運小乘。その漢尾小附て凶賊を誅せり。とて。天道ハ不義を惡と
 て。徳義小親むと承り。何ぞ神明も義軍と賞け。暴賊を討せざるんや。さき。將軍家の
 再興ハ種と廻らざるんや。と謂て。益酒を献し。うけり。義昭大悦ぶ。とて。かくて。永祿十一年

八月、信長岐阜に進發し、河内郡和山に至り、使を馳せ、依り本兼頼小説て、義昭小従へんとす。使者之度、小及不まで、竟小兼頼従ひ、信長怒て、岐阜小降し、領土の兵を整へ、兼頼が本城、観音寺と攻んとす。然る小和山の城、八家人守り、箕作の城、武部吉田、両士とれを守り、小より、信長地圖を投ぎ、熟監し、まが箕作を攻る小着、比と和山、山火押を、至て、久庭小箕作の壘を抜く、初め兼頼の又、義頼と謀り、和山の城を築き、別法の兵士を募り、信長來つて、まが是と攻ん、然る小箕作、観音寺より、兵を出し、後を襲んとす。信長、其の謀慮を察し、直小箕作を援け、和山の方へ攻め、忽ち小没落せり。兼頼父子、大小必と、援資の兩城、既小陥り、觀音寺の孤壘、亦々、信長と城を棄て、出奔し、信長兵を進め、諸城を攻る小國内、凡小應、ト降る。の既、小八城、小及不、周りに別悉く、卒らぐ。信長、観音寺の城、小移り、不破河内守を遣て、義昭を逐けり。義昭喜びて、守山小到り、信長の功の早きを賞む。同年九月廿八日、信長、義昭と携えて、京師小入り、義昭、清水寺、信長、東福寺小居り、菅野九右衛門を、軍勢の根藉を制

林、以、初め、信長、京師小入るとき、その威風、と、使、傳へ、定めて、暴行のあつんを、忍ぶ、資材、雜具、を、運び、老を、扶けて、逃亡する者、多かりしが、信長、入て、制令、法、肅、放て、秋毫、自、犯、せ、し、都下、大小、悅び、て、まが、兼、頼、と、喝、けり。夫より、信長、攝、刀、小、奔、向、り、芥、川、の、城、を、攻、む、城、主、細、川、六、郎、三、好、日、向、守、城、を、棄、て、退、去、し、凡、小、應、を、條、田、右、衛、門、小、清水、の、城、及、び、池、田、流、後、守、り、池、田、の、城、頭、を、扣、て、降、来、し、と、小、放、て、信、長、の、威、勢、益、振、ひ、て、畿、内、平、ら、ぎ、松、永、久、秀、下、會、降、り、信、長、の、地、を、備、士、小、共、入、洛、小、停、り、を、清水、寺、小、居、り、義、昭、ハ、六、條、の、本、國、寺、小、居、り、り、て、洛、中、洛、外、の、制、法、を、定、む、尋、て、義、昭、を、奏、り、請、て、任、夷、大、將、軍、の、職、小、任、ト、是、利、十、五、代、の、將、軍、と、る、ハ、この、功、小、因、て、從、立、位、下、小、叙、り、彈、正、忠、小、任、と、義、昭、信、長、が、武、功、を、賞、り、管、領、と、る、と、ハ、初、廷、議、と、副、將、軍、と、る、と、ハ、信、長、と、と、拜、禪、と、兩、あ、り、受、け、ら、れ、今日、の、奉、ハ、將、軍、の、長、運、と、と、吾、國、と、為、小、非、ハ、と、然、且、巴、峽、内、の、地、を、棟、取、と、も、こ、こ、と、も、辭、退、と、て、界、と、大、津、と、小、守、護、と、並、き、辭、と、破、阜、へ、歸、ら、し、け、り、か、こ、その、翌、十、二、年、正、月、と、ぬ、山、城、入、道、笑、岩、同、下、野、守、山、成、主、親

好を擧つ。威勢控々。天正二年十月信長上洛と推大納言小任。右近衛大将を兼ぬ。
 信忠秋田城小任。同十月春。清て功臣の姓氏を改む。所謂塙九郎左衛門。左田備中守。信
 繁。田原。山本。大。等。皆。別。喜。右。近。改。め。の。丹。羽。長。秀。と。惟。任。と。明。智。と。皆。惟。任。と。は。河。原。其。兵。清
 と。肥。後。守。と。羽。柴。藤。吉。と。後。石。守。と。武。井。丹。菴。二。位。法。印。小。叙。一。友。用。と。皆。官。内。卿。法。印。と
 あり。の。類。を。同。に。年。近。江。の。妻。小。城。を。築。て。改。阜。より。移。る。正。三。位。小。叙。内。府。小。任。む。の。年。又
 月。大。坂。小。復。あり。同。五。年。紀。別。を。信。長。同。十。月。松。永。久。秀。信。貴。の。城。小。叛。を。討。て。信。忠。圍。之。是
 と。殊。も。同。六。年。信。長。正。三。位。小。叙。也。同。十。年。春。二。月。信。長。親。將。と。て。甲。別。の。武。田。勝。頼。を。攻。む。勝
 頼。敗。走。天。目。山。出。て。竟。小。自。盡。可。け。ま。甲。別。悉。く。信。長。小。屬。也。
 按。小。武。田。氏。の。元。祖。義。清。甲。別。小。封。と。受。り。より。こ。小。五。つ。て。系。嗣。十。七。世。凡。四。百。六。十。餘
 年。可。て。國。滅。び。祀。絶。ら。ず。
 信。長。大。小。志。を。濟。す。こ。の。ご。も。中。國。を。も。順。に。得。柴。秀。吉。と。と。信。長。と。信。忠。と。書。を。以。

別。小。馳。せ。毛。利。氏。親。ら。來。り。機。令。失。ふ。べ。く。比。邊。小。援。兵。と。出。り。多。し。信。長。書。を。濟。て。大。喜。び
 我。親。性。を。三。舉。を。と。と。取。ら。る。西。陲。と。と。う。事。業。あ。る。と。令。下。多。く。畿。甸。の。諸。侯。亦
 國。小。敵。を。備。前。の。兵。に。令。せ。よ。と。明。智。光。秀。と。と。先。鋒。と。と。む。是。より。高。光。秀。小。賓。客
 饗。應。の。と。と。令。以。同。く。光。秀。善。美。と。と。竭。黄。令。を。抱。て。畧。玩。を。索。む。然。る。小。果。さ。び。と。の。の
 令。あり。翻。覆。何。ぞ。と。小。到。り。と。か。の。畧。財。を。湖。小。波。大。小。怒。て。丹。波。小。守。也。主。小。叛。の。意
 と。決。ま。り。武。井。傳。ふ。邪。波。和。泉。守。齋。藤。内。藏。頭。が。と。小。叛。て。信。長。が。怒。小。叛。を。故。小。光。秀
 を。召。て。連。責。し。手。同。光。秀。頭。を。打。と。二。小。至。り。と。見。光。秀。甚。む。因。り。よ。く。叛。逆。の。心。然
 決。ま。る。と。も。い。へ。り。か。と。光。秀。五。月。廿。六。日。龜。山。の。城。小。入。り。廿。七。日。屯。宅。山。小。到。り。折。檻。の。と。あり
 と。謂。て。西。の。坊。小。宿。一。廿。八。日。紹。巴。等。を。擧。て。連。致。の。會。を。催。せ。り。于。時。光。秀。率。示。ら。う。と。い。ふ。か
 林。寺。城。の。深。さ。幾。丈。ぞ。と。も。と。標。を。噴。ふ。小。及。び。その。色。葉。を。脱。き。小。及。び。認。る。人。大。小。不。審。ゆ。り。
 既。小。く。龜。山。小。降。り。廿。九。日。織。田。信。長。近。習。僅。小。百。五。十。を。抱。て。赤。川。小。登。り。本。林。寺。小。在。り。

信忠の弟信長寺小在。六月朔日明智光秀、龜山在て明智左馬助同次右衛門左衛門
 孫之備及内花雨等と居て、汝等が為小死せんや、倘若らば我頭を斬とて血染終るまで
 命小從んといふ光秀、叛心の由告ぐ内花雨等と止む。左馬助馳り香小及を以て速小入浴せ
 ば大事あらんと夫より香小龜山を祭り我軍旗を信長小見せあらんとこのを名とて直小糸
 陣を伴て走る。六月日未明小及び本能寺の四面を勢ふ信長泣き及る者、誰七蘭丸出で
 これを望み光秀多きはと云ひ信長怒りて防んとす。元來光秀小と故りぐ、森蘭丸長
 室及びその弟坊丸長隆力丸長氏等戦力を揮ひ屢敵小敗るといふ。眾寡併さると
 見と悉く討死と信長脱とぐと死を知りて大に從て自殺しぬ。于時歳四十九あり。

一書小いそぐ是利氏の辱、王室を衰へ極む織田氏朝その際定めてそふ所と忘まど。
 林寛信、供津と辨、缺、修、廢、奉、借、仲、小、及、且、具、湯、邪、毒、の、説、小、悉、を、敵、之、燔、き、長、は、と
 屠、を、以、て、後、世、小、惠、む、と、小、教、を、假、て、志、を、死、に、忍、忍、の、か、り、成、煥、小、幾、も、惜、哉、と、云、え、り

家系信長公所二
 見ユ

織田信忠

年歴上二同

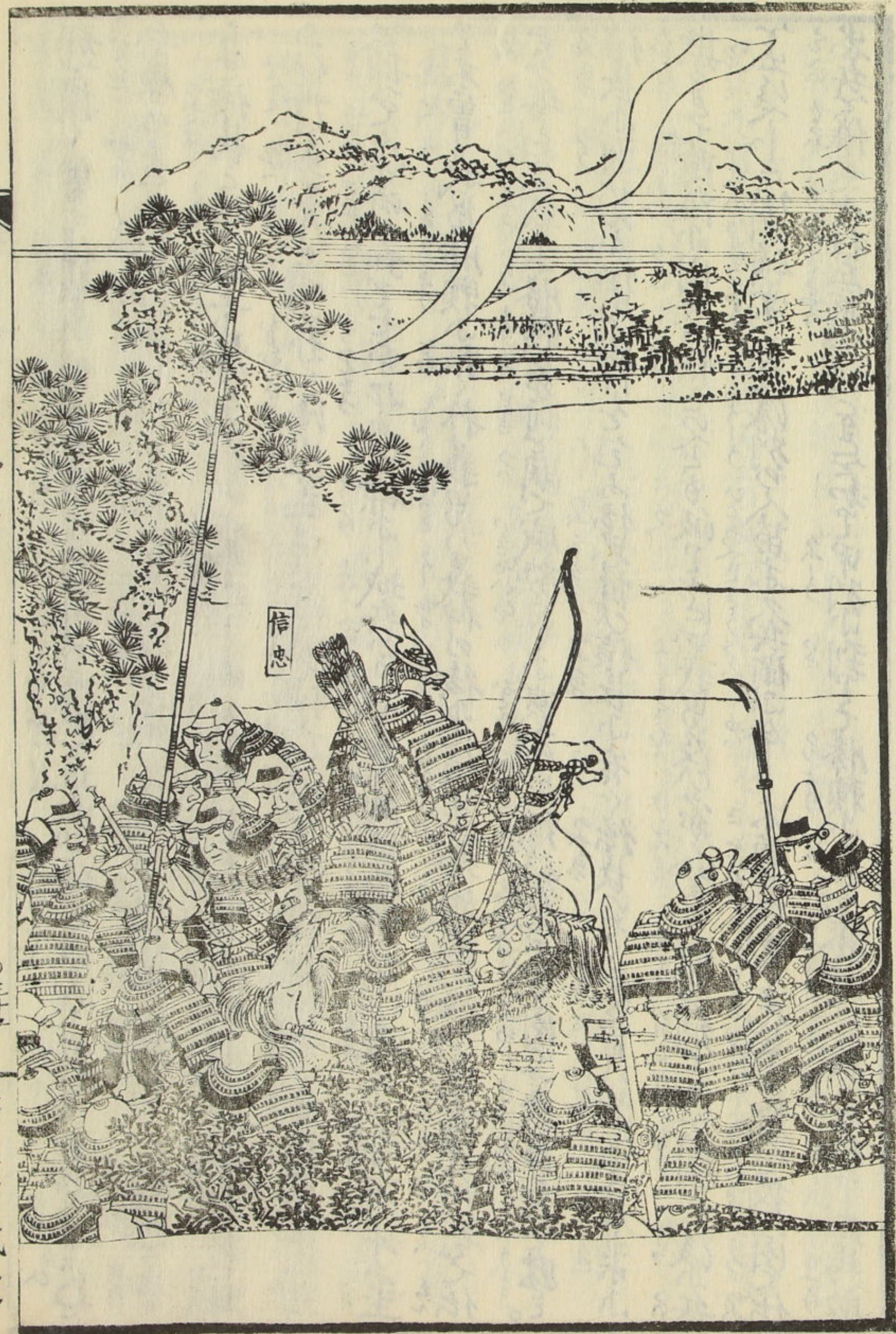
織田信忠者信長嫡子也。既長屢立軍功。
 殪松水於志貴城。戮荒木伊丹壘。其後
 督軍破甲州。殲武田氏。振旅旋雒。未幾
 罹明智之變。

信忠、信長之嫡子也。信長屢立軍功。殪松水於志貴城。戮荒木伊丹壘。其後督軍破甲州。殲武田氏。振旅旋雒。未幾罹明智之變。

織田信忠の跡

信長の傳申小姓と稱め功を賞せり。元龜二年秋七月信忠初め禮を著せと稱名奇妙
 清曹司と稱せり。の時淺井備前守長政と代んが為初め淺井郡小出火と小谷の志小
 放ち敵首二百餘級を擧ぐり。とて合戦の手始めとて天正五年二月の信長安土小徒の
 小及び信忠波草の城小居り。かく天正五年十月松永久秀信長と深く怒む故めて志貴
 の城小預り。豫叛の波入あり日見別務子信忠小兵と援けとて之を撃ち。時小松永の堂
 海元名氏森林氏の一族河内小起り。元龜の城小據り。信長波て長兵部大輔明智日向守筒
 井順慶と信小命をてとて攻む。長兵の子共一郎。于時生年十五歳。二男頼又郎十
 四歳。先登してとて攻む。諸兵少年小勵まると蟻附を急小釋ゆり。城兵防ぎ戦ひ
 かく海元名自殺。城隔り。かく久秀使を馳て難波孫一郎小援兵を乞ふ。その使張つて佐久
 間信盛が陣小入る。信盛捕へて信忠小言以信忠大小歡びて兵數百人を難波より。の援兵の

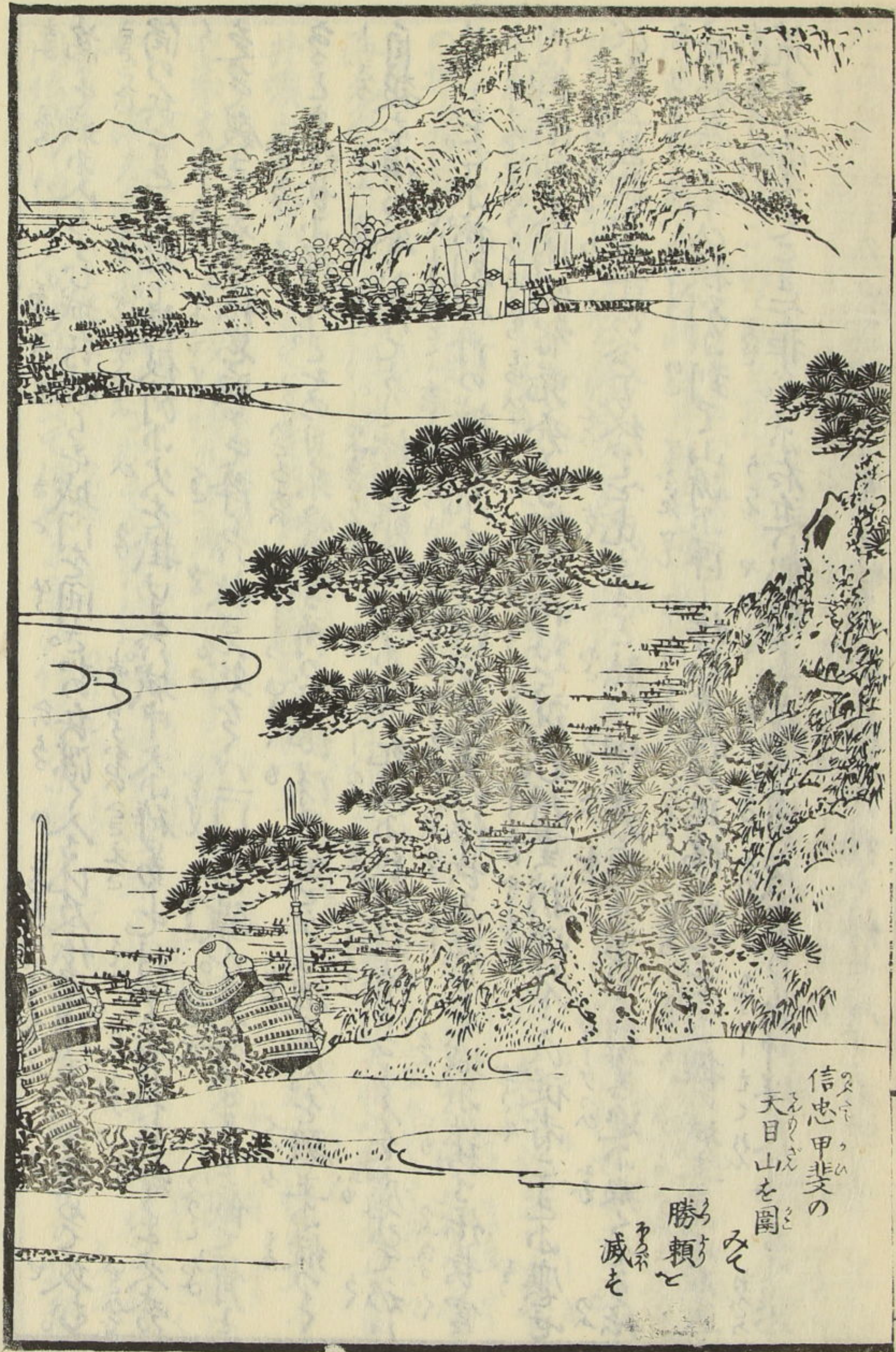
為と城小入らむ。城兵曉らむ。城門を開き。かの兵深く入る。及び信忠諸軍を進めて攻む。
 筒の兵と小應。搦後所小火を掛け。城中大小碎易と。討む者數人。かく久秀
 走つて殿主小登る。信忠追りて降ら。赦せん。然るに門小鐵人と久秀とをを顔て骨と
 多とも信長小濁せ。とて日未愛ま。所の平蜘蛛の釜とてうち破り。火を殿主小縱つと
 自殺を併の冷ハ豫てより。信長懇望あり。死後小故の玩弄とありんを慮ひて初ハ
 せり。とて。小杉別伊丹の城主荒木村重守村重ハ信長小叛ま。とて城小籠る。信長官
 内卿法印友閑明智光秀をせと和好と祝む。村重稍從んと。從者。とて小應せ
 び。とて一旦赦小遭といふ。終とて克とると結り。知小共と起さん。いと村重逆小叛く。信
 長躬兵を率ひ。撰別小到り。山崎小陣。信忠天神の馬場小屯と。この觀の城主高山右近
 荒木小黨と。とて拒む。と小右近ハ耶蘇宗と信と。因て被宗の長師伴天連と。多て懇
 小右近と諭と。右近忽地小心と。多と。質と。執と。信長小濁と。信長厚く右近と賞。芥川



信濃

〇三十五

群玉堂藏板



信忠甲斐の
天目山を圍
勝利
み
滅を

百將傳

群玉堂藏板

郡を授け曾て信長附城を築き、次本伊丹の兩城を攻む。信忠進んで昆陽野に至り、火を
 兵庫の色小放ち、伊丹を攻むと急ぎ、守り固めて終に抜く。國を諸將とて附城と守
 らせ、信長と共小安未帰より、かて羽生天正七年、荒木村重大坂の光佐小援ひて、素ん密
 小伊丹と出で、尾崎小赴く。滝川一益、孫慮とて、伊丹の城を陥落、以將城兵の妻より百二十人、これ
 之捕て、尾崎小到り、七本松小して、礮小、城兵小見せむ。幾、離城、嘆き、夫より、天正十年、小至
 了。木曾義昌、勝頼小叛、梓義昌、義仲の後、信長威で、近國小拒、小至。木曾和とて、信
 長塔とる。然る小勝頼、家臣と、關で、威勢日小衰、之、且、謀、及、辱、至。因、之、義昌、これと、謀、之。
 信長小通せん、と、信忠小許を乞ふ。信忠、悦び、信長小告ぐ。信長、之、木曾小陰、退、之、義昌小
 欺、之、以、陰、謀、小困、す。怖、之、之、由、敵、之、が、に、義昌、及、ひ、家、臣、等、が、質、之、納、て、約、之、固、じ、後、小兵
 之、出、之、と。信忠、領、掌、を、濃、別、の、入、苗、本、之、兵、衛、小令、下、木曾、及、ひ、家、臣、等、が、質、之、扱、之、固、之、信
 忠、兵、衛、之、十、村、左、京、人、信、別、の、之、之、智、を、甲、別、小到、り、勝、頼、小告、ぐ。勝、頼、怒、り、左、馬、助

信忠、仁科五郎、信盛、大子、搦、子、の、將、と、之、木曾、を、誅、戮、せん、と、多、久、然、れ、ど、攻、て、先、之、勝、頼、發、て
 羽、出、木曾、を、討、つ、と、兵、を、整、へ、因、之、の、旗、訪、小屯、今、復、を、と、木曾、之、攻、む、義昌、大、兵、の、到、つ、と、告、
 信長、小援、兵、を、請、ふ、因、之、信忠、兵、衛、方、を、率、以、木曾、小、兵、衛、向、し、信長、七、方、誘、小、之、信忠、は、小、向、ひ、けり。
 加之、北、條、氏、政、三、方、誘、を、率、之、關、東、は、小、陣、を、信忠、進、ん、て、依、別、小、入、と、下、條、伊、豆、守、が、守、る、所、の、
 伊、奈、の、城、忽、地、陷、し、松、尾、の、城、主、小、笠、原、信、嶺、由、も、降、る。因、之、依、別、大、半、平、ら、ぐ。信忠、固、平、八、と、
 森、脇、花、を、先、鋒、と、し、信、別、の、救、城、を、扱、く、木曾、義昌、及、ひ、苗、本、之、兵、衛、今、復、が、陣、を、退、却、
 致、を、斬、り、信忠、小、秋、と、信忠、大、小、之、を、賞、し、義昌、小、感、快、を、興、ふ、尋、て、信忠、飯、田、小到、り、道、邊、軒、
 信、綱、が、守、る、外、大、瀧、の、城、戰、い、ど、と、道、れ、を、信忠、陣、を、大、瀧、小、移、し、河、尻、を、と、之、之、成、ら、せ、又、進、
 ん、て、飯、瀧、小、赴、く。依、別、甲、別、兵、大、小、之、懼、降、る、者、い、と、多、し。然、し、ど、も、武、田、勝、頼、將、頭、訪、小、在、て、
 衆、を、勵、ま、し、と、之、挑、之、戰、い、と、勝、小、元、山、梅、雪、ハ、信、玄、の、塔、小、と、之、の、親、と、原、多、し。小、勝、頼、が、約、
 小、背、く、必、怒、り、妻、を、假、て、之、別、小、之、勝、頼、發、て、大、小、之、を、誅、戮、す。旗、訪、を、去、て、新、府、小、入、信、忠、進、て、

三田村... 三田村... 三田村...

三田村... 三田村... 三田村...

高遠を攻むる城主仁科五郎信盛軍お小山田備中守教を備へて力戦とすとも死傷の者多し
終信盛及び小山田の城討死す時小勝頼甲別小在り府中の修造の成を成を防ぎ雅三
七郎を家臣を集めて自らを謀り小山田左兵衛佐とす都留郡内へ險隘の地を急おし
先移
入しと真田安房守上列の執事小遊下り小勝頼正と然して真田昌幸等とて先行
しむ任に長坂長閑がと小山田の代は真田の二備のほの小山田言小従へて固く勝頼郡
内小赴く信進進々甲府小入甲信被上四列の間林小志ある者小速小来と普くは方小若
けは諸士を先を率ひ拜谒する者市の如く信忠の威大振小勝頼郡内小入ると然し勝
頼小到り小山田を待つ小山田微心を發し新開と居る勝頼を入り勝頼周章て天目小合
從者多く難敵せり彼信は長坂師部もいふ遊電一土屋惣花秋山犯伊守阿部如安守
温井者陸分も五七輩從ふの信忠初て滝川河死れ自らを攻圍すむ勝頼力盡て自殺せり
實小信忠世の大功臣情をか成りて逆臣の雅小羅とす人

家系出自未詳
傳云清和源氏
なり斯波武村ノ一
族ニテ元ハ越後ニ
住セリ中頃織田家
ニ仕ヘ一族トイドモ
家臣トナリテ美濃
ニ移ルト云父祖姓
氏未考

柴田勝家

同帝天正十一年四月自害
今安政三丙辰述二百七十四年成

柴田勝家者信長之將也稍有勇氣受
信長之命與北國兵戰爭有年而能平
之遂領越前為北陸諸士之魁信長没
後欲害秀吉而成大事不克為秀吉被殺

勝家生害のとき時を呼けるを彼て一夜の夜に殺めたり
不わがよむわとぎい」と詠し既小自殺すと傳ふも渠ハ北風の猛物といふもの
秋道小も志ありて風流寛雅ある奴又とす



日将傳二

〇三六

作



百非傳一

越前北の
勝家
死を
究めて
家族と
宴を
君
王
堂
飛
木

君
王
堂
飛
木

小友信守信者協心秀吉小和乎を云ふ秀吉拒むと雖も乃和ぬと云ふ返に勝家北
 紙小在てて今今とて殊せん必後の缺あんと丹羽長秀小終せむ長秀素より秀吉
 と為擔に固てその回報具るに秀吉威日小熾小月小盛るまに勝家いふことと嫌に氷雪
 の堆積小より兵をまて我海を怒り心中小同苦む滝川一益柴田小説きまう秀吉と欺さ
 て春夜雪山を俟小如と使と速て秀吉小いふや。信長の夜半と竟む勝家秀吉と又と磨
 世の初を免るまにとまう心と改めて秀吉と典小幼君を翼と秀吉彼て柴田小織田の元臣と年
 うその言小從ざると則使節とてとを奪一紙若小帰らむ勝家笑て欺き海よりと心中小然
 て然る小秀吉蜂須賀及び木村隼人を拒てその度勝家拒親のこを悉く偽珠之秋忌情と
 窺ひてあり攻んと欲するに吾うとてとを察し何ぞ未嘗小欺まんやと兵を引て長濱小到り柴田
 信賢守勝豊が守る所の郷圍を放し且その家信をたて我小降らめよと云ふがは昔應ど勝
 豊小答勝豊と様とて小不降る

傳小く勝豊ハ勝家の養子とて後勝家の甥なる依久同盛改小如賀の二郡と典小
 愛勝豊小邁ををり勝豊平生小言を嫉む盛改威縮勝豊を凌ぐ一年元々の式
 小放て盛改起て兵を執り勝豊押へて言を奪ふ是より勝家公恨と盛改と悪む小
 より今初の如くとせん

明皇天平元年四月秀吉兵と北別出えんと然るまの雪も消えまは勢別の滝川を撃
 て勝家と一掃と断と近に草津小諸軍と會し物勢合せて七万余人三隊小分て進み戦ふ滝
 川一益兵士寡くこと小對とて然に夜小果と獲んと久秀吉秀と備を強く固ての謀計違
 公滝川義大夫もまをる小勢別大略を均と未り秀吉勝家を攻んと同年に月兵と進め志
 津が嶽のを小到り勝家依久同盛改小三人を授けて對む干時織田七信孝而日の約を改め
 盛改小黨とて秀吉兵と率て大柳小到り信孝と攻め及び盛改とを截りんと勝家公命を受
 て中川清秀が陣とて秀吉清秀を命とて授け戦ひも衆寡を終ひて小討死と秀吉事の急るを

笑持て諸君守りて自ら志を洩す瀬の志不赴く盛政一万二千誘て率て志保高の北嶺
 小傳と池田勝政字を率て後人欲まきまき秀吉大兵璠を隔らして援ふとをゆるし侍小秀
 吉雲を進め後市松以下の勇士を遣て援て教を授けしを柳瀬の七本建とて人々をわかれら
 小畧は依然間の軍兵敗走し柴田勝政戦死し勝家躬秀吉小相成りて戦いしは従兵
 僅小字あり衆寡更小侍を家は毛受勝助者是と諫めて北の莊小退るる勝家
 名乗て小死以勝家道まて本城小入り其妻小告ていも子八信長の妹之秀吉必去の害
 旅下城まて遁入と夫人泣きまて肯て去秋夜草とて箕帚と看が家小執り今看と
 其小死をいも秀吉之妻をいも人々をいも勝家宴を設け酒を執り号を傾け人間
 の事竟るまといも時放軍城を抜く勝家村文若愈とて今措せり終北の莊小自殺す
 其妻の女々八家永新奥村九郎次郎と副に城中まきまき二女於家後小後殿まて後殿と謂
 て秀吉の妻まきまき秀頼の生母まきまき

豊臣秀吉

人皇百八代 後陽成院慶長三年八月薨
 今安政三丙辰迄二百五十九年二成

豊太閤常著朝服
 于閣下施藥院感
 殿敷拜天顔
 謂人曰身起病本
 益極入臣天恩
 家式微之時朝
 後宮本三職
 而有不圖近龍體
 人而身乃出燦尾
 松祢貞徳ガ著ス
 所ノ戴恩記ニ載ス
 ル由巖垣東園ノ
 國史略ニ云リ

豊臣秀吉者發自匹夫握日本于掌内始
 仕信長多有謀略亡毛利討明智殺柴田
 擊島津滅氏政日熾月盛升位歷官為
 關白而讓之世稱太閤遣兵侵略朝鮮
 芳名播異域

本朝更無比類あり。匹夫より起りて官位人臣を極む千古一人の也

豊太閤の節

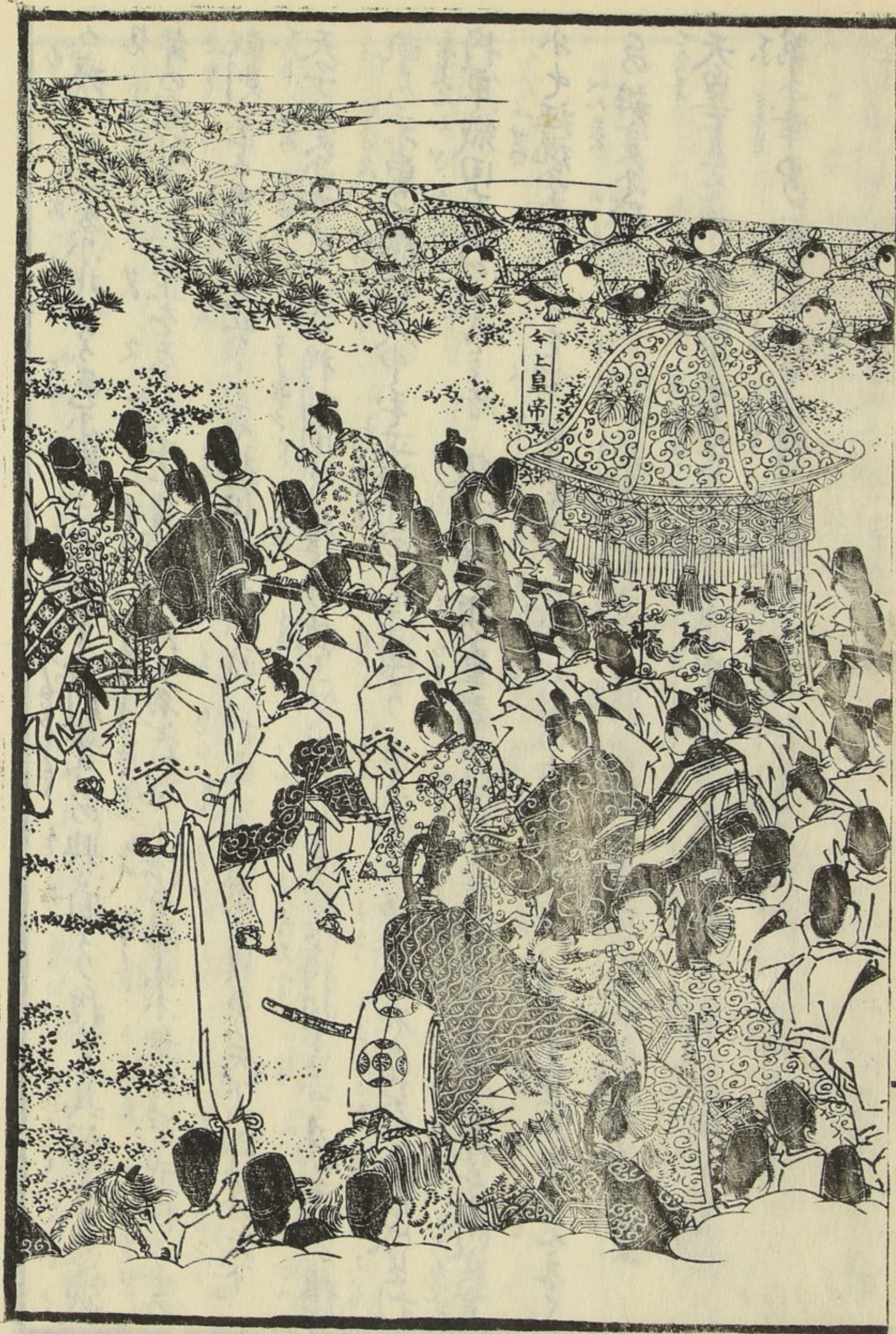
もの公の事蹟真書太閤記及びその餘の實記實の御世も多傳りて牧者漁父も多き事を知り
 ちの出世を伴ひての徳を林と今きく何ぞか贅言をきき但右小載る貞徳が戴恩記の夜に東
 國が國史略小をえ天野依景が陸死小もまたいふ秀吉のき尾羽の民間より出さるる事列すべ
 ありこれと事とさういふ所をさういふ不忠不義の上の交々をあらはれ但し右母若き時内裏の山園子
 所の下女さういふあつてあつて玉體小付のきなりしりありそ夜の爰小成千万のし核箱は規り掃
 塵さすまもあつて天をたふしとる又千を振神の出てさういふ小うてこのしは後世に感づくこと
 懐胎せしむるこの爰のあひぬと守をきて下界をえさるる被戴恩記小の所據なる下又東國
 國史略小の豊太閤吾母日悔懐小入と夢て吾を生りといふと世小傳りたる益徳終とてその
 皇流といふありさういふ小爰のその實と吐さるあり初廷と憚りて園り其後之施茶院の二語
 ハ偶感激喜悦の原り小を必すその實と吐さるる所も天政所日輪の爰ハ託りて必すこれと云ふ

う或ひはさき多小北せらる。是小園てまを親ま六則豊公の興る園より種あり其智勇兼備救
 年の間乱を撥ひ正をえ。天子と異戴一諸大名を糾合し法を將來小無れ必す武將万世の
 軌則とす者ハまき宜るるも也。松苗常小の我 神國大小外國と異り。天下ハ即一人の天下
 天子ハ實小天上の王公將相固より種あり故て必すた今の豪傑位將相小至る及ひ天下の權を
 執り未嘗て微賤の人ありま平相國のてま園り 皇流あり謙念の右大將及び北條氏臣利
 將軍織田右府のてまも 桓武 清和の皇裔あり乃知る豊公の系戴恩小記さる所實言
 小と述説小ありさるるを世小豊公を謂て凡種奴隸の出此とする者ハ豈をさ然ん乎とをさる
 るの辨實小確論あり。かして豊公の志を海のハ聚樂弟を遠宮あり。ま不幸ありんて誘ふ
 天皇さまを許し多小園て弟曰去必小命。應永中將軍義滿の弟小幸。永享中義教の
 弟小幸あり故典を探りて卿の記録を考ぐるてまを社をがて天正十六年四月十日月風
 輿四の門をさ北。正親町を過て聚樂小到りて終言衛の祐候平修入希驅後兼道と校



百將傳一ノ巻卷之十一

〇四十一



百將傳一ノ巻卷之十一

君玉堂

發彈ハツマ舞マユ令シ整ト齊ニ角ノ。遠ト近ニの士ノ聚リ拜シもの街ノ小ノ遮リ市ノと欄ノ第ノ中ノの夏ノ景ノ奇ノ麗ノを盡シ。
 花ノ竹ノ美ノ木ノ茂クと幸フ。天ノ顔ノ太ノ悅ビひる酒ノ之ノ飲ム及ビ豊ク小ノ天ノ益ヲを賜フ後ノ小ノ夜ノ逆ノの管ヲ。
 弦ヲあり番ニ五ノ羊ノ樂ヲ番ニ鄂ノ曲ヲ番ニ太ノ平ノ樂ヲ十五ノ日ヲ。所ヲあり清ノ大ノ系ノ小ノ盟リむ十六ノ日ヲ大ノ小ノ公ノ卿ノ諸ノ。
 大ノ名ヲを盡シて上ノ皇ノ。天ノ皇ノ神ノ製ノの和ノ音ヲを賜フ十八ノ日ヲ。天ノ皇ノ宮ノ小ノ還リて黄ノ令ヲ百ノ兩ノ金ノ欄ノ二十ノ卷ノ。
 鹿ノ野ノ木ノの胸ノ十ノ箇ノ衣ノ服ノ百ノ領ノ須ノ百ノ匹ノの建ノ蓋ノ金ノ基ノ各ノ二ノ箇ノ。白ノ銀ノの盆ノ各ノ二ノ箇ノ。馬ノ十ノ足ノ張ノ即ノ之ノが千ノ字ノ文ノ。
 名ノ畫ノ之ノ幅ノ沉ノ香ノ百ノ斤ノを奉ノ獻ス。その母ノ親ノ王ノ國ノ母ノ及ビ公ノ卿ノ太ノ夫ノ諸ノ百ノ寮ノ賜ノ進ノあはく差ノありと。
 之ノ氏ノ小ノ秘ノてを縦リの六ノ四ノ方ノ波ノの如ク小ノ奔リ。地ノ上ノ小ノ蹲リてを拜シ。父ノ老ノ或ハハ淚ノ流リて國ノら。
 之ノ日ノ今日ノ作リて太平ノの象ノを觀スと奉リて萬ノ世ノを福シひけり。

日本百將傳一夕話卷之十二終

